大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）　昭和五年三月三十日印刷納本　同五年四月一日發行　第八卷第三號

婦人運動

四月號

第８卷　第３號

職業婦人社發行

早稻田高等女學講義

月刊雜誌「女學の友」毎月進呈

▼毎月一回發行

▼學費月壹圓

▼一ヶ年半修了

仕事の傍ら卒業出來る
家庭の高等女學校

學問と實力の兩方を同時に得られるのがこの講義錄の特長です。內容は高等女學校の科目と全く同じで、しかもワカリ易い親切な講義ですから、讀むとすぐ役に立ちます。また專檢や小學校敎員檢定の試驗を受ける人にとつては、理想的な參考書です。

結婚講話　公民講話　修養講話　國語講話　國文法　作文　習字　英語講話　植物講話　生理衛生　動物鑛物　物理講話　化學講話　內外地理　地理概說　日本歷史　東西洋史　算術講話　代數幾何

市川源三　宮田脩　沼田笠峰　窪田空穗　三浦圭三　谷紀三郎　塗師谷秀敎　宇野たか　櫻田ふさ　和田精一　大塚雄二　林伊勢吉　山岸貫治　高木みつ　岩崎吉勝　西山多重　石山玉子

衣食住　家事經濟　家庭管理　育兒看護　家庭料理　日常作法　和服裁縫　子供洋服　袋物製作　毛絲編物　外國刺繡　造花　茶、生花　家庭衛生　音樂講話　模樣圖案　美容講話　法律常識　園藝講話

中澤美代　岡田道一　一戶伊勢　永地待枝　赤沼八重子　宮崎伊惠子　河野きく　金澤靜子　高津鶴子　高橋タミヱ　松島種美　岡田道一　中山晋平　野生司香雪　田中雅子　豐原淸作　宮田孝次郎

春季新學期開始

中學・商業・政治經濟
文學・法律・電氣工學
建築・受驗・最新電氣

以上の諸講義も新學期・申込次第見本進呈

見本進呈

東京牛込 **早稻田大學出版部** 振替東京一一二三 電話牛込三四五番

大日本百科全集

一圓均一

一家擧つて大喜び！家庭の寶典

良書に不景氣なし
增刷又增刷の大盛況！



大日本百科全集
全卅九卷の偉容

秋穗敬子	家庭料理
村井政善	支那料理
戸以蘭子	和洋裁縫
河野富子・岡田政子	編物と手藝
三須裕	美容と服裝
松平宗岡	作法と禮式
井上秀子	家庭管理法
原田三夫	家庭日常科學
木檜恕一	住宅と建築
岡田朝太郎	日常の法律
瀨木辰夫	書式手續總覽
今井健彥	式辭挨拶演說
伊藤長七	格言警句集
佐野學	主義學說の字引
芳賀剛太郎	日用語大辭典
服部嘉香	現代の書簡
渡邊鐵藏	經濟常識
龍澤愼作	運命三世相
境野黃洋	宗教の門
西山哲治	子供のために
本長治	生活安定法
矢野正世	處世社交術
岡本京太郎	家庭醫學
所良吉	自療と民間藥
佐久間鼎	姙娠と育兒
米津讓內	性典
島田廣	女性典
松川二郎	名勝溫泉案內
中內蝶二	娛樂大全
雁金準一	圍碁大觀
木村義雄	將棋大觀
松山思水	趣味百話
鷹司信輔	小鳥の飼ひ方
石井勇義	四季の家庭園藝
橋戸信	運動と競技
三宅克己	世界めぐり
馬場孤蝶	世界名著解題
高須芳次郎	日本名著解題
編輯部	我家記錄

各册五百頁以上壹千頁の大册特賣振カナ付挿繪豐富挿入四月三十日まで一圓期間後は定價に復す

（內容見本進呈）どれでも分賣特價一圓均一

東京神田錦町 誠文堂
振替東京六、二九四
電話神田四七一・三二九六

第八巻第三號　婦人運動（四月號目次）

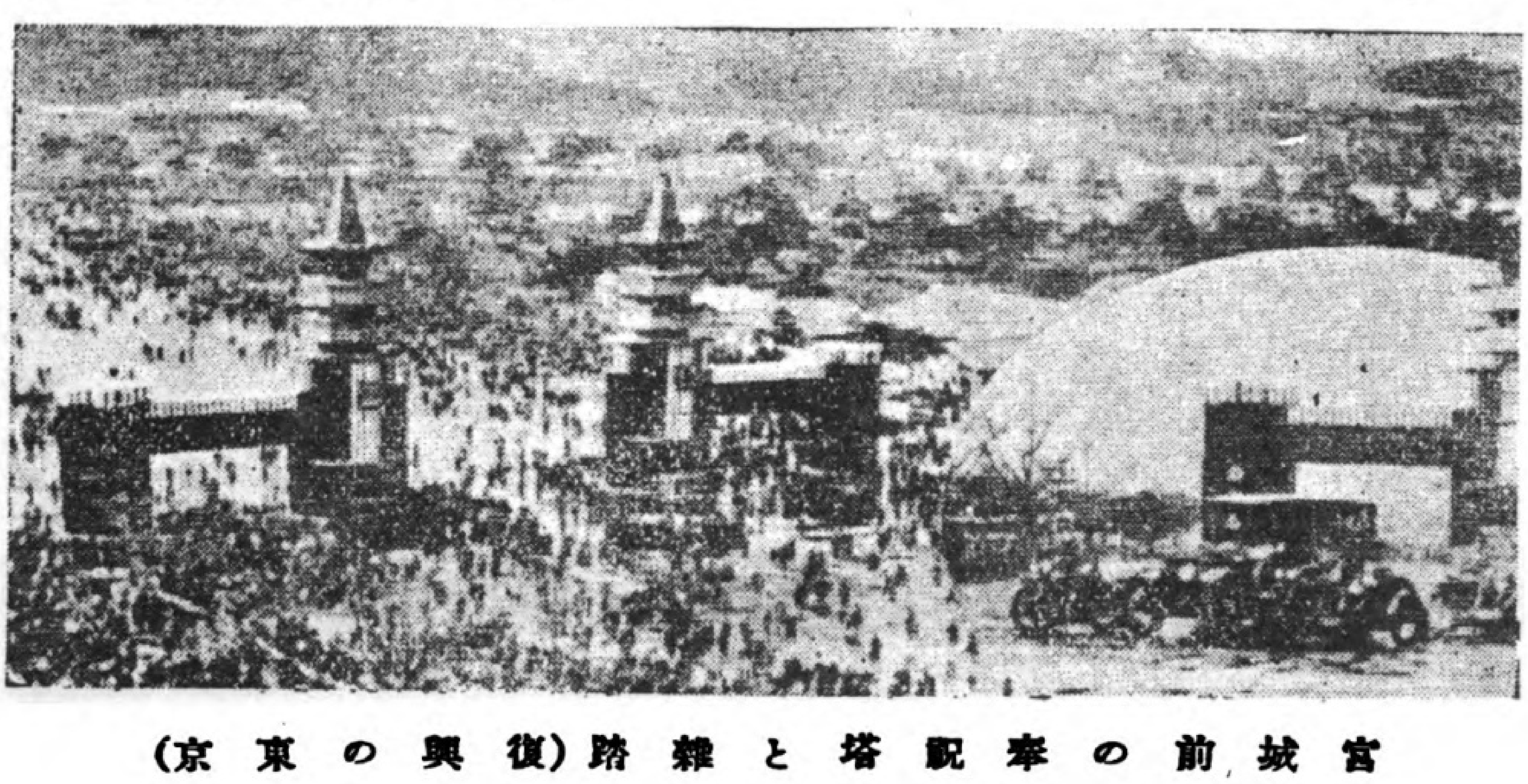
重要な社會問題の矢面に立つた女・子供

女の生活は、國の政治と直接の關係がないであらうか。
子供は、政治と沒交渉に生きてゐるだらうか。
否、全然否！
最近の社會問題の中でも最も重要な位置を占めてゐる四つ——

×糸價補償法の發動
×印度に於ける綿布關税の引上げ
×義務教育費國庫負擔の一千萬圓增額
×不景氣による失業者百萬人突破

いづれも女に直接の問題であり、子供の問題である。かく、國家的に重要な問題の矢面に女・子供の生活がさらされてゐることに注意しなければならぬ。

現内閣は、緊縮政策を標ぼうして立つた内閣である。緊縮宣傳のためには歴代の内閣初つて以來といふ新しがりを發揮して盛んに婦人團體に呼びかけて御用に立たせて成功した。然し、下に强要することの嚴しかつたに反して自ら緊縮の實を行ふことには、乘りまわす自動車の數を減らすことや待合ゆきを西洋料理に代へる位のことでお茶をにごしておいて、減税を行はず、軍縮に手をふれず、行政整理の斷行を得せずして批難され



宮城前の奉祝塔と雜踏(復興の東京)

てゐたのであるが、最近に至つて五六百萬圓の損失覺悟で、糸價補償法の發動を約束し、義務教育費の國庫負擔を、七千五百萬圓から八千五百萬圓に上らせて一千萬圓の支出といふ積極振りに依つてその緊縮政策を完全に破綻させた。

多くの養蠶家や製糸女工は糸價慘落のために働いて收入を與へられず、賣つて元値もとれないといふ非常に慘めな事情につきおとされてゐるのであるが、六月十一日といふ期限つきの糸價補償法はほんの少數の製糸業家とそれに關聯する金融者のために糸の値を上げてやるだけで、實際に困つてゐる人の上に及ぼす惠澤はもの丶數でもない。この資本家への御用振りをみ逃してならぬのである。

義務教育費の國庫負擔金增加は、在野時代から主張してゐたことであるから實行するといふのであるが、この一千萬圓が町村の教育費としてまわされても實際に運用されることは殆んど望まれないことである以上、これだけの餘裕金があるならば直接義務教育の充實と徹底のために生かす道は他にいくらでもあることを主張しなければならぬ。

製糸業家の不況から多數製糸女工の上に賃銀不拂問題がひき起されてゐるのであるがかて丶加へて、印度では日本から輸出する木綿地に高い關稅をかけてこれを防止しやうとする法案を出した。これは直ちに紡績女工の頭上に迫る不景氣問題である。產業合理化に依る勞働の强化、賃銀低下と共にこのために紡績女工の失業と收入減とは一層徹底的に及ぶであらうことは云ふまでもない。

斯うして今日の不景氣はどこまで激化するものか測り知られぬのであるが、生活難の大嵐のまん中に投げ出された女と子供の生活を如何にして保護すべきか。現行選擧法における女と子供の代表者を許してゐるとしても、かうして、政治に直面したる女、子供の生活からわれ〳〵の政治鬪爭はいくらでも進められる筈である。

日常の政治鬪爭に果敢であれ。



銀座地方（復興の東京）



姙産婦保護の問題について

村上賢三

姙産婦保護の問題は、その直接の目的とするところは姙娠してゐる婦人、出産する婦人、産褥にある婦人を保護し、これ等婦人の健康を圖ることにあるが、然し更に遠く目的とするところは、之によつて、その胎兒の發育をよくし、無事に出産させ、より健康な次代の國民を得やうとするにある。即ち社會を構成する各成員の健康を圖らうとするのであつて、姙産婦保護問題は第一義的には國民全體の保健上の問題である。

然し、現代の社會に於ては各個人の健康も或程度までは經濟力の問題で、金がなければ健康を保持する事は出來ない。だから國民保健の問題と云つても經濟力に餘裕のある中産階級以上の者であれば、社會の力をまたずに各自、自分の力で健康の保持を圖ることが出來るが、貧困な階級にあつてはたとひ健康をのぞむこと餓えたる者が食を求むる如くであつても、自己の力ばかりによつては健康の獲得維持を圖ることは出來ない。ここに姙産婦保護の問題は社會政策の問題として第二義的の意義をもつ。

しかも貧困の度は郡部よりも都市に甚だしく、健康の害はれる程度も郡部よりも都市に多い事實からいきほひ姙産婦保護の問題は都市を中心としての國民保健の問題となり、無産階級に對する問題となるのである。

○

我國に於ては毎年二百萬餘の出生があるが、これだけの子を産むに際して約六千人の婦人の生命が犧牲になつてゐる。

昭和二年には我國內地で五千七百六十五人が姙娠及び産の爲に死亡しており、その內産褥熱による死亡が千九百二十二

人、其他の妊娠及び産による死亡が三千八百四十三人となつてゐる。今この昭和二年の妊娠及び産による死亡を各府縣別にその出産（死産をふくめて）千に付ての割合を算出してみると次の様である。

各府縣別にみたる母體の死數

	出産千に付妊娠及び産による死亡
全國平均	二・六五 人
（死亡率高き地方）	
沖縄縣	五・四三
東京府	三・七三
岩手縣	三・五九
秋田縣	三・三八
島根縣	三・一八
大阪府	三・一二
山梨縣	三・〇七
富山縣	三・〇六
鳥取縣	三・〇一
山口縣	三・〇〇
滋賀縣	二・九八
京都府	二・九四
北海道	二・八六
神奈川縣	二・八六
奈良縣	二・八五
岡山縣	二・八四 人
大分縣	二・八〇
青森縣	二・七七
高知縣	二・七四
福岡縣	二・七一
熊本縣	二・七〇
石川縣	二・六八
長崎縣	二・六七
（死亡率低き地方）	
新潟縣	二・五九
兵庫縣	二・五五
愛媛縣	二・五一
廣島縣	二・五一
鹿兒島縣	二・四五
三重縣	二・四四
香川縣	二・三九
千葉縣	二・三九
埼玉縣	二・三八
群馬縣	二・三六
佐賀縣	二・三六 人
和歌山縣	二・三五
長野縣	二・三一
茨城縣	二・二〇
宮城縣	二・一四
福井縣	二・一四
山形縣	二・一一
福島縣	二・〇四
靜岡縣	一・九七
徳島縣	一・九六
栃木縣	一・九四
宮崎縣	一・九二
岐阜縣	一・八四
愛知縣	一・七八

これによつても明かである様に東京府、大阪府、京都府等大都市を有する地方の死亡率は高率である。大正十四年に於ても妊娠及産による死亡は出生千に付全國平均は三・〇二であるに對して重要十六都市の平均は四・一七であつた。就中東京は五・七九、大阪は四・二〇で最も高率を示してゐる。これは大都市では多人數が密集して生活してゐる爲に常に非衞生的になり、一方經濟的壓迫もあつて自然過勞におち入り、其の上醫藥に依つて治す機會が少ない爲に、これ等の社會層の婦人にとつては、妊娠、出産と云ふ生理的現象のためにも容易に犠牲となる者が多いのであらうと思はれる。

○

我國の婦人は世界の各文明國中で最も多産であり、從つてそれだけ妊娠及産による危險及び健康障碍が多いのである。即ち妊産婦保護の問題が我國婦人の爲に一層強く叫ばれなけ

ればならない理由は玆に存する。

東京市に於ける齋藤博士の調査の結果によると、結局多産多死と云ふ事であつた。然しこれは單に東京市のみに限つた事ではなく、我國全體に共通な事實である。多く産むが故にその生れた子供は多く死に易く又多く死ぬが故に多く生まれる。即因が果となり、果が因となつて、多産多死、多死多産をくり返し益々國民の健康を障碍し、國民の負擔を重くしてゐるのが我國の現狀である。

今、妊娠可能の年齢を假に滿十五歳から四十四歳迄としてみるに、この妊娠可能年齢の婦人の人口千に對する我國の出生は約一六六（大正十四年）であるのに對して、英國では九〇（一九二一年）である。これを以て見ても我國の婦人が如何に妊娠出産の機會が多いかを知る事が出來るのである。

○

次に現在我國に於ける妊産婦保護の制度をみるに、我國に於ても世界的大勢に刺戟せられて、妊産婦保護の條項をふくんだ健康保險法が大正十一年の議會で制定せられ、大正十四年七月一日から實施、昭和二年一月一日から給付を開始するに至つた。

即工場法適用工場、鑛業法適用事業場及び工場における臨時雇用以外の勞働者及び年收千二百圓以下の職員を强制的に被保險者とし、又別に若干の工業的企業の事業主は、主務大臣の認可をうけて、その事業に使用する者をも包括的に被保險者とする事が出來ると云ふのである。分娩に際しては原則としては分娩費及び出産手當金が給付せられ、場合によつては助産手當、産院收容等の給付も行はれ、分娩死亡の場合には埋葬料又は埋葬費が給付せられると云ふ規定である。

單に分娩に關してのみならず産前産後の休養に關する規定も實施せられ母體及び胎兒に極めて有効な結果をもたらしてゐることは申までもない。

この健康保險制度の對象となる人員の統計をみるに昭和二年六月末に於ては、

政府管掌被保險者	一、一四〇、一五五人
健康保險組合被保險者	七八七、三二三人
	（組合數三一六）

百九十二萬七千四百七十八人となつてゐる。然しこれ等被保險者中の婦人の數はこゝに詳ではないから、大正十五年三月末の婦人の數をみるに、

工場法適用工場、總婦人數　八七二、一五二人
鑛業法適用事業場及び工場　同　六九、九二〇人
計　同　九四二、〇七二人

九十四萬二千七十二人となつてゐる。

此等婦人の出産率の推算は政府管掌の分は、

分娩率　有夫女子百人に付年二十
有夫者の割合、女子百人に付　工場　二十五／鑛山　七十

即婦人百人に付年出産率は工場は五、鑛山は十四と云ふ事になる。今この豫想率を前掲の婦人被保險者に適用して一年間の出産數を計算してみると、

工場に於ては　四萬八千六百餘
鑛山に於ては　九千八百餘
合計　約　五萬八千四百

即全國出産の約四十分の一が健康保險法によつて保護せらるるわけである。從つて、健康保險法適用範圍外の他の四十分の三十九は何等恩惠を蒙つてゐない。

この四十分の三十九の中にも勿論保護に浴する者と同じく或はそれ以上に保護を必要とする者が多くある事は明らかである。

かかる婦人の保護は如何になすべきか。

妊産婦保護の根本的精神から見て、將來かかる婦人をも保護すべく、保險制度の範圍を擴張すべきである事は當然の事であり、且つ國民保健上極めて緊要な事であると思ふ。

健康保險法による被保險者の數及び被保險者婦人の豫想出産數は東京市政調査會發行の「都市に於ける妊産婦保護事業」により・各府縣別の妊娠及び産による死亡率は昭和二年「日本帝國死因統計」及び「日本帝國人口動態統計」より算出したものである。

◆産兒制限相談所◆

妊産婦を保護する第一條件は、母體にムリを來さぬやう妊娠を調節することにあろう。東京市が率先してこれをやろうとして、頭のない老人連ににらみつけられてサタ止みになつた。

然し、だまつてやむべき人でない市會議員馬島僩氏あり、愛兒女性協會を動かして、芝區御成門で相談所を開いた。

これに見習つた大阪市も・社會事業協會の手で産兒制限相談所を初めるさうな。職業婦人社の中にも相談部がある。

みなさん、大いに利用して下さい。全國の市町村にかうしたものを置きませう。

ソヴェート文學の發展過程

茂森唯士

一九一七年のプロレタリア革命によつて、舊ロシヤ文學は、他の一般社會的存在と同じく、根幹から搖り動かされ、舊文學者の大半は反革命の陣營に下り、他の一部は國内に殘つて沈默し、セラヒモーウイチ、ゴーリキイ、ブリユーソフ、マヤコフスキイ等少數の文學者が進んで革命と結びついた。

一九一七年から二一年頃に到るいわゆる戰時共產主義の時代には、文學は殆んど正當な形で存在してゐなかつた。軍事や政治上の他のより緊急な必要のため、傍らに押しのけられ、著しく歪められた形においてのみ存在してゐた。この當時の文學形式中比較的活躍したものは詩で、その代表詩人としてはマヤコフスキイ、パステルメク、等のロシヤ未來派、プローク、エセーニン、クリユーエフ等の民族主義的詩人、舊ブルジョア文學の殘餘部分であるアフマートヴマンデリシユタム等のアクメイスト及びキリーロフ、ゲラシモフ、カーヂン等の勞働詩人であつた。

ところが一九二一年國内戰の終熄と、新經濟政策の採用、國民經濟の或程度の恢復は、文學の上にも相當力強く反映して、革命の同伴者と呼ばれる若いインテリゲンツイヤの作家が現れた。それは「セラピオン兄弟」の名に最初結束して立つたピリニヤーク、イワーノフ、ニキーチン等であつた。

この革命の味方ではあるが、プロレタリアートとは階級性を異にする小ブルジョアジーの若い作家群は、一九二二、三年から四年頃のソヴェート文壇において獨自の見地から革命に取材した多數の優秀なる小説を出し、決定的な役割を演じ

た。その中で特に一般に記憶に殘るものは、ピリニヤークの「裸の年」其他、フエヂンの「都市と年」レオノフの「バルスキ」、イワーノフの「花色の風」、セイフーリナの「ウイリネーヤ」及び、エセーニン、チホーノフ、クリユーエフ等の詩である。

ところで露國に於ける經濟建設の進展と、一九二四年第十三回共產黨大會によつて公然と切つて落されたる文化革命の開幕とは國內に於ける階級鬪爭の深化をもたらし、過渡期的傾向を帶びたる革命の藝術的同伴者の上には分化作用が持ちあがつた。即ち或者は革命と共に進軍をつゞけ、プロレタリアートに益々接近し、或者は、足踏みし、取り殘され、右傾化し、反動化した。前者の代表的な作家としては、ラウレーネフ、セルヴインスキイ、チホーノフ、トレチヤコフ及び舊未來派、(現「ノーウイシフ」)並に構成主義者を數へることが出來、後者には、ピリニヤーク、フエジン、エレンブルグ、マラシキン、ロマノフ等を擧げることが出來る。

同伴者の分化と共に著しい傾向となつて來たものはプロレタリア文學の躍進的な發展である。新經濟政策の三、四年間において、それはすでにリベヂンスキイの「一週間」、セラヒモーウイチの「鐵の流れ」、フルマーノフの「チヤパエフ」及「反亂」、グラトコフの「セメント」等の傑作を持ち、創作的技術の點を除けば、同伴者のそれに比してすら劣らない優秀な成績を收むるに至つた。即ち曾て宣言的創作か、勞働詩人の詩しか持たなかつたプロレリア文學は、質においても量においても發展し來つた。

一方、ソヴエート共產黨は文學に對する指導的政策の樹立について、一九二五年六月歷史的な大討議を開き、ルナチヤルスキイ、ブハーリン、トロツキイ等の政治家を始め、ボロンスキイ、ウオロンスキー、ワルヂン、レレーウイチ等出席して討議した結果、非常に重要な意義を持つ黨の政策を確立した。それは同伴者に對するより愼重な利用並に誘導政策、農民作家に對するより親密なる友誼的關係の設定、プロレタリア作家の黨を笠に着た己惚の防止と共に、彼等の生長を極力助けることを以てその眼目としたものであつた。

この政策のコースに從つて一九二七年全ソヴエート聯邦の主要作家團體が、「ソヴエート作家聯盟」なる統一組織の下に結合され、そこでプロレタリア作家か指導的地位に立つた。現在ソウエート聯邦における文學團體を擧ぐれば左の如し。

1 全聯邦作家聯盟。(上掲)

2 全露作家組合　この組合には同件者の重要な群が結成されてゐる。また組合には、泌透せる新ブルジョア意識の携帯者と目されてゐる作家が加盟してゐる。

3「レフ」一團　同團體にはウエ・マヤコフスキイ、エス・トレチヤコフ、並にエヌ・アセエフ一流の同伴者の「無條件革命」作家と相並んで、エフ・シユコロフスキイ等の反動的評論家が加はり、「レフ」の代表者は藝術の役割を否定し、それを新聞の小品欄、スケッチ、ニュースに變更することを要求するまでに至つた。

4　構成派主義者　僅かの人數であり、同伴者、左翼が參加してゐる。

5「嶺」(ペレワール)　この一團には同伴者の一部の者と、プロレタリア及び農民作家の僅かの人數が參加して「嶺」の思想的構成は甚だ散漫である。

6「鍛冶屋」(クズニツア)　この一團は、特に、初代プロレタリア作家(グラドコフ、リヤシユコ、ノウイコフ・プリボイ、ペレゾウスキイ、其他)によつて結成されてゐる。

7 全露農民作家協會、これはポドヤチエフザモイスキイ其他によつて組織され、主として農民青年作家によつて、活動が續けられてゐる。

8 全プロレタリア作家組合同盟(ワップ)は一九二八年五月第一回全プロレタリア作家組合大會後、全プロレタリア作家組合統一同盟を確立した。

最後に如何なる組織體にも屬しない作家の數も相等に多い。

一九二七—二八年の文學季節は非常な活況の中に過ぎた。同件者一派においてはオレシの「嫉妬」を除き特に見るべき傑作がなかつたが。、プロレタリアの方面には幾多の大作がある。ミハイル・ショロホフの「靜かなるドン」ウエ・パフメチエフの「マルチンの犯罪」、セメヨノフの「ナタリヤ・タルポワ」、カラワーエフの「木材工場」、バグダーノフの「第一の娘」、ウエ・キンの「向側に沿つて」等がある。これらに見られるやうにプロレタリア作家の近年の成長は質的にみるも量的に見るも特に著しいものがあり、殊にそれに對する勞働階級の側からの要求は、同伴者のそれに對する需要と比して特に顯著なものがあり、時と共に増大しつゝある。

現在のプロレタリア文學の特徴について書くならば、

1作品の基本的傾向がプロレタアレアリズムに置かれてあること。

2作品の主人公が社會主義的建設に有用な人物であることと（之は同伴者の作品の中心人物が革命に無用の人物であり、コムミユニストの描寫において彼等かいつも失敗してゐる事實と興味あるコントラストをなしてゐる）

3作品と時代との結びつきが極めて緊密であること、等である。

兎まれ、文學の外野における、ソヴエート、プロレタリアートのヘゲモニー獲得の過程は他の文化諸分野におけると同様、極めて顯著であるといふことが出來る。（本稿は小生監輯「日露年鑑」一九三〇年版による）

× × × ×

（二七頁よりつゞく）

妾を蓄へる、フン、この世智辛き世の中に、何といふたわけたことぬかす奴だといふ抗議、反問が立所に起る現在である。絶へざる生活費の向上、銀暴落に伴ふ物價騰貴、就職難に悩む若人にとつて、何とそれが馬鹿々々しい閑文字に見ゆるかも知れない。妾制度の如き不合理且つ贅澤極まるものは經濟的原因のため余儀なく獨身生活を繼續しつゝある支那の大多數の青年男女にとつては余りにも馬鹿々々しき存在であらねばならぬ。上海婦女協會の音頭に初まつて各地の婦女協會より叫び上げられた「打倒第二夫人制度、妾除去」の要求も有閑婦人の自慰運動以上の何ものでもない、と云ふべきでもあるかもしれぬ。事實に於てかうした經濟的要因こそ、政府によつて發布さるゝ幾多法令の効果を超越して妾制度の撤廢に最も有力に役立つものである。

云ふまでもなくこの問題の根本的解決は支那における普通教育の普及にあること勿論である、われ等は一九三〇年初頭における上海婦女協會の「打倒第二夫人撤廢」の運動が一日も早く効を奏せんことを祈りつゝ擱筆する。

——（一九三〇・二・八）——



子に依る感謝

奥むめお

下の子の紀伊子も愈々學齡に達しました。お負つては、西行き東往きしてゐたことが未だまるでこないだのことの樣であるのに早やとの喜びの日が到來しました。

十年來仕事におはれて、あくせくと風のやうであつたこの母親にも拘らず、子供たちは健康に惠まれ、ひねくれもせずそれ〴〵の個性を伸ばして育つてをります。母親としてまことに不甲斐ない自分の生活を顧みるにつけても、私は子供たちが、よくもこんなにまで育つてくれたものだと、感激なしにはゐられないのであります。然し、携つてゐます仕事の性質上、今日までには私も子供も隨分といろんな人のいろんなお世話になつて來ました。早く四月一日になつて、下の兒も新しいランドセルをお負つて兄とつれ立つて學校へ行く姿をみたいものだ、その姿を早速寫眞にうつして、お世話になつた方々へ早く送つてあげたいものだと、こんなことが此頃の私の頭の大部分を占領してゐる程、私は親馬鹿ちやんりんになり切つてゐるのを嗤つて下さい。

考へてみるのに、貧しく忙しい母親をもつた自分の子供たちの淋しさと悲しさと不幸のかず〴〵に心を搔きむしられることの度重なるにつれて私は、廣い社會の幸と不幸と正と邪と、かくあるべきこととあるべからざることについて多くの學問を獲ました。今日まで働いて來た私の仕事の原動力が、そして恐らくは今日以後に於ける婦人運動への私の微弱な努力も、その一切はこの涙と憤りの感激からほとばしり出てゐる、と云つても決して過言ではありません。

今の私は、子供たちがもつと大きくなつて、この微力な母親の、然し、今日の歪んだ社會が齎してゐるところの多くの不幸について底知れぬ悲しみに怒り泣いてゐるこの母親の心を心として今一段の成長を遂げてくれて、やがてがつしりと社會に立つ日のあれ、と、こんな念願の上に輝しい明日の社會の喜びをつなぎとめてゐるのでありますが、上の兒が十一歳、下が七歳の今日、月日の立つのはあつけなく早いものであることを思はずにゐられません。私の若い友人たちもそれ〴〵に兒を持ち、手のかゝる子供ゆえに職業的勤務からころび落ちやうとしてゐる者があり、一方、灼くやうな執心と興味を婦人の社會運動にもち乍らずる〳〵と家庭の貧しさに足搦されてゐたりしてゐます。その人たちの苦しみを五年前十年前の私の憶ひ出の中にまざ〳〵と感ずることの出來る私はそれだけに一層、

それに敗けてしまつたらおしまひだ！

と、口に出してさへ懸け聲をかけて勵ましせずにはゐられぬのであります。

子があるよりも無い方が、職業に就く場合にも働く仕事をもつ場合にも、樂であることは云ふまでもありません。まして、家庭の係累をもたず自由に飛びまわることが出來たら、どんなに捗々しく仕事が發展してゆくことだらう、とは、誰しも夢想することであります。わが國の現在のやうに生活樣式が未だ非常に封建的であり、結婚して家庭に入つた女の地位が悉く惨めである事情の下では、女が獨立した生活をねがひ、家に縛りつけられぬことをねがひ、子供を生みたがらないのは、一面に於て、時代的な動向だとも云へませう。最近におどろくべき發達をとげた産兒制限法の如きも、この要求が齎らした必然とも云へませうし、コロンタイの「赤い戀」が問題となり、リンゼイの「友愛結婚」が飛ぶ様に賣れ、カルヴートンの「結婚の破産」が歡迎されてゐるのも、又、舊い生活樣式を捨て舊道徳をふみにぢつて起たうともがいてゐる若い時代の反逆相の一面ともみるべきでありませう。

然し、女は本質的に子供を生むことを欲するものであり、母親となることに依つて初めて、ほんとうにその人らしい美しさと光りを容貌の上にも性格の上にも發揮するものであるのを拒みうる人が有るでせうか。

今の世でこそ、子のあることは負擔であり、結婚して家をもつことが煩ひであらうとも、これは決して正しい存在でありません。又、これは結局妻をも夫をも、父をも母をも子をもほんとうに生かす道では決してないといふことを知るべきであり、私たちの婦人社會運動は、これらの不幸を克服して奪はれたさゐはゐを私たちの生活の上にもち來たさうとするものであると確信してゐます。

從つて、結婚して家庭をもつてゐる者や、子を持つてゐる者の、その負擔のかたわらにする婦人運動が現在いかに微々たるものであるにせよ、それが生活に根をおろしたほんとうのものである限りそこには大多數の、家庭の下敷となつて身悶えてゐる婦人たちの血のにぢむやうな實感と感激がこめられてゐます。私たちは失望して放擲すべきでは決してなく、その努力の上に努力を積み重ねて究極にひらける勝利のあるべきことを見失はずにゐたいものであります。

漫然たる政治行爲を排す

長崎女子師範學校の北村校長は、投票日であつた二月二十日に女生徒四一二名に總選擧の實習を行はせて「わが國に於ける婦人選擧の魁をやつた」ことを報導してゐられます。なほ石の如くぐわんめいな校長の多い師範學校に此のやうに進取的な實行家をみるのは、とにかく近頃痛快なことゝ云はねばなりますまい。

その報告に依ると、「實際の本縣選出議員と如何に違ふかゞ興味ある問題である。二十三日夜に明確になつたのをみると一區二區合せて九人の内七人までが、一致し、各區一人宛違うた」さうであります。

長崎縣に於ける政友會と民政黨の地盤關係の如何について私は知りませぬ。この地の候補者の各個人の人物なり、現在の所屬政黨へ入つたときの事情なり、これまでの政治的經歷なりについても特にこの場合ふれることを避けませう。たゞ、一般的な問題として今日の選擧は、普通選擧とは名ばかりでどこでも少數の例外を除く外は、法定の選擧費用を遙かに越える莫大な金子で投票が買收されてゐることは公然の事實であります。

又、一人の代議士が新らたに政黨に加入するとき、所屬す

る政黨を變へるときは、相當に多額な抱きこみ料なり、利權や地位のゆづり渡しの約束なりをうけるものであり、總選擧のときは相當の運動費用を一陣笠といへ共黨本部から受取るのでありますが、それらの總和は、いふまでもなく資本家の支出に依るもので、資本家は、故なくしてこの莫大な選擧費用をひきうける筈がなく、常に、より莫大な收益を與へることに依つて、資本家の御用黨として役立つてゐるのであります。いつの場合でも政府黨が選擧に大勝する理由の大半は、運動資金が潤澤なためであり、それは、實行力をもつ政府黨に資本家から捧げられる金子が莫大であるからです。

　かういふ政治の實際について、少しも敎へるところなく、各政黨の主張するところや政策の批判や理解を拔きにして、たゞ漫然とまねごとの投票をさせ、そればかりか、今迄のやうに金力に依り、情實に依り、歪んだ選擧の上に行はれる實際の投票の結果と、九分の七の一致をみたことについて反省するところもない樣なことでは、政治的にはまだ全く處女地である婦人の上に及ぼす惡影響の多いことを思ふ故に、私たちは反對せざるをえませぬ。

　これと同じやうなことを、婦人の政治運動についても云はずにはゐられませぬ。

　婦選獲得同盟の主唱になる婦人の選擧革正運動が、今度の總選擧にあたり、婦人參政權要求の聲を全國的に高調し、有權者には棄權することなく正しい人に投票する樣に、と呼びかける運動をつゞけたのは權利を奪はれてゐる婦人として誠にふさわしい仕事であつたと云はねばならぬのでありますが、婦人の政治敎育運動としてとり揚げられ、選擧革正の旗の下に行はれるものであつた限り、婦人の運動としてはもつと敎育的効果に重點をおいて進められたかつたと思ひます。「選擧革正」といふ合言葉は、皮肉にも今度の總選擧で民政黨も政友會もとりあげたものでした。彼らは、看板に選擧革正をひら〳〵させながら、財閥の貢いだ金子で選擧費用を調達し、各候補者は投票を買收しました。政府は反對黨を壓迫し妨害するといふ批難の聲があちこちにあがりました。等々。かういふ人たちが一時逃れの人氣とり策としてとりあげた選擧革正と婦人のする選擧革正運動とに、本質的相違を見出したいと希ふたのは私ばかりでせうか。

　この本質的な相違は、各政黨の立黨精神や政策やについて充分なる批判と正しい理解をあらゆる機會を捉へて多くの人々に與へることをおいて外にないことは云ふまでもありません。

　政黨政治の確立した今日では、政府とは議會に絶對多數を占めてゐる政黨が作るところのものであるのですから、政府

のなすことは全て正しい、となして盲目的に服從することは決して忠良な國民のすべきことでなく、常に十分なる批判の上に立たねばなりません。この批判の目を開かせることが選擧革正運動となり、この批判の上に婦人の要求を主張することが婦人政治運動となりたいものだと思ひます。漫然と婦人參政權を街頭に叫ぶ婦人の漸く多くなろうとしてゐる昨今、政治の實際について、各政黨の重要政策について、誤りのない理解と批判を多くの婦人がもつことが出來るやうに教育運動を急ぐことは、婦選獲得のあかつきに其の力を最も正しく行使するために重要なる用意であります。

婦人の熱誠を反動勢力に利用することに最も成巧した最近の例は、さき頃の緊縮運動でありました。婦人團體の多くが全國的に競ひ立つて民政黨政府の緊縮政策を支持し、そのお先ん棒となつてあれほど働いたのでありましたが、政府が緊縮實行の誠意を少しもたなかつたことは減稅をしないこと行政整理、軍備縮少に指をふれないことに依つても明かであり、最近には、糸價補償法の發動を約し義務教育費の國庫負擔金一千萬圓の增額をさへ聲明してゐるのに依つて明らかでありませう。たゞ、民政黨政府の正體についてはつきりとした見通しの上に立つた婦人の政治教育運動がなかつたために今日のこの殺人的不景氣に呻吟してほぞを嚙みながらも多くの婦人はなすところもなく救ひなき生活苦に泣いてゐるばかりであります。

ところがさき頃の總選擧に於てまた、婦人の政治教育運動に於ける不徹底について、悔いを重ねることになりました。無產政黨は正しい主張の上に立ち乍ち內部抗爭があまりに繁しかつたために、そしてその上、それに所屬する婦人同盟のいづれもが所屬政黨にひきづられること急なれば急なりしだけそれだけ全般的な婦人層へ働きかける余力を殆んどもたなかつたために、婦人の上に行はれた政治運動と云へば婦選一派の、選擧革正運動につゞく參政權要求の勢揃ひだけに終りました。選擧革正といひ婦人參政權といふ、そのことだけならば今日のブルヂョア政黨さへ何れも口にしてゐるところであります。これらを眞にわれ〳〵の武器として生かすためには正しい認識の上に立つた批判が必要であり、その認識を把持するための教育運動が絕對に必要であります。

今や、婦人參政權が實現される日も近からむとしてゐるときにあたり、參政權をもつことに依つて婦人の熱誠が一層大きく反動勢力に利用されることのないやうに、十二分の戒心と、そのための教育運動を急ぎたいものであります。

* * * * * * * *

總選擧は何を敎へたか

第二次總選擧は無産政黨議員を、從來の九名から五名につきおとした。思つたほど大衆は、無産政黨に心をよせてゐないとの明らかな證據をこゝにみる。無産黨では*

*この前の得票數　四八七、五〇五
こんどの　五二三、八六八
差引三萬六千票の増加にしかなつてゐないのである。そして各黨の得票數は次のやうでありその比率は下表の如し。

	總得票	その割合
民政黨	五、四七七、六五〇	〇、五二五
政友會	三、九二八、二九四	〇、三七六
無産各黨	五二三、八八八	〇、〇五一
國民同志會	一〇八、四九六	〇、〇一二
革新會	五五、四八七	〇、〇〇五
中立	三二二、八七五	〇、〇三一
計	一〇、四三六、六九〇	一、〇〇〇

△

總選擧の前つぎ〳〵と大きな疑獄事件が續出して國民はたしかた、既成政黨にアイソをつかした。既成政黨になぜ國民の投票は、なだれを打つたやうに舞込んで行つたであらうか。

思ふに、無産各黨のやうに、こまかく澤山の黨が對立して互ひに惡口の云ひ合ひをしてゐるのを聞いては、悉しい事情を知らぬ國民としては、どつちがどつちだかさつぱり見當がつかずサヂを投げた形であらう。

然し、一時的にサヂを投げた民衆に依つて無産黨が慘敗したとしても、長い間、支配階級、金力階級にじうりんせられて來た民衆の恨みが深いだけそれだけ、民衆自身の政黨が力强いものとなつて動き出す日が必ず近い内に來やう。

□

今度の選擧で無産黨同志對立して共倒れに終つたものゝ中、對立せず仲よく票を集めたら必ず無産黨の當選者を出した筈の處は、(總得票數が當選數をこえてゐる處)

東京第一區三人で九、六二六票
同　二區　二人で九、六七五
同　四區　三人で六、五三二
同　五區　二人で二七、八六四
(こゝでは勞農黨が一九、三〇六で一人當選してゐる)
神奈川一區　三人で三五、九二〇
山梨　二人で一三、二六五
大阪四區　四人で三一、三六二
京都一區　三人で一四、九一一
奈良　二人で一四、六四五

□

民衆は必ず無産黨を守らねばならぬことについて政治教育運動を進めてゆくのが、どの無産黨にとつても第一であつて、代議士を立てることが目的ではないが、然し、かといつて折角の投票を仲間内の競爭で亂戰をやつてむざ〳〵死票にしてゐるのはいけない。

合同問題の聲のみ姦しい折柄全國農民組合の幹部級のものが經濟運動を政治運動にふみつぶされるやうなことがない樣にといふ心から、無産黨の役員であるのを全部辭めることにしたといふ。全く、さうでなくてならぬことだ。

春風戯讃

奥榮一

手を上げて
海に逆ふ心地しぬ
春のちまたをひとり歩めば

つくづくし
吾子とふたりが摘む野邊の
このあめつちののどかなるかも

春たてば
下水の水も大空の影を浮べぬ
悲しからずや

春の街
モダーンガールの足首を
鋏でチヨキンと切るよしもがな

氣がつけば
倒れるまでだとくりかへし
歩いてゐたよ春の歩道を。

饑えたれば
犬にも似たり吾が心
二本の足で立てるが悲し。

破れたる傘にしあれば
春雨に
ダイナマイトもぬれにけるかな。

塵となれ芥ともなれ
わがものと
思ふ命の悲しからずや

何故焚かぬ
朽木の如きわが身をば
怒よ汝れに一切をかく

屈じれよ
鞭うてさいなめ張裂けて
爆發するまで俺は生きてる。

こつそりと行きて眺めぬ
住みなれて
追はれし家の庭の櫻を

創作「女建築家」

多田徳一

それは四月の半頃私が學校を卒て働いた最初の建築現場。

陽春を浴びたほかほか暖い日、神戸灘道居留地の遊園地には散歩する人、テニスコートにラケツトを握る人の思ひきり春を樂しげに享樂して居りました。

その直ぐ傍きのK會社に七百坪もある平家建煉瓦造倉庫が建築される現場で、その建築の家根は木骨瓦葺きでそれに化粧家根裏なものですから屋根裏板は千坪からの六分板が入るのですが、全部それを削らねばならないのです。

社會が複雜になつて來ますと妙なもので、總ての仕事が分業的になつてそのころ削屋と云ふ商業がありました。朝から晩迄板削りをする仕事です。千坪からの屋根裏板その鉋削りを夫婦二人きりで請負つた削屋の大工さんが居りました。削屋さんは身の丈六尺もあらう三十歳位の大男で、逞しき身體を以つて長さ六尺の板の端に鉋を掛けて端迄一氣にシヤーシヤーと音を立

て足を踏ん張つて鉋を辷らして削つて了ふのです。それは見る間に削れて了ふのです。

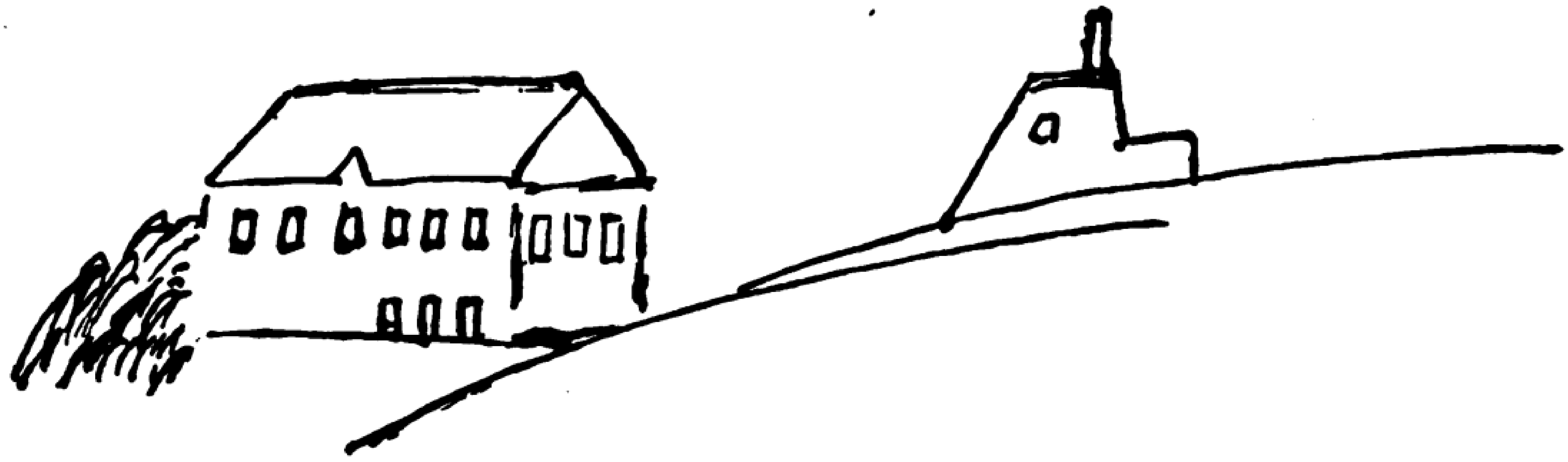
其の削屋さんの妻君に、人の好ささうないつもころころする笑顔の好い三十二三歳前後の年に思れる人があつて、手拭を頭に姉さん被りに被つて、夫の鉋削りする傍に立つて板を一枚一枚削臺の上にのつけ、それが削り了へれば右の手で取り左の手から次の削らる板が削臺の上に出されるのです。

削られた板は綺麗に積み重ねられます。彼女の仕事は板の整理女工さんなんです。

削屋さんは十二三枚の板を鉋削りしますと鉋が切れ止み（切れなくなること）ますので鉋を砥石で研がねばなりません。削屋さんは鉋を四丁持つて二丁づゝ研ぎます。夫の鉋を研ぐ間の數十分間を、彼の妻は別の鉋で一生懸命鉋削りを始めます。研ぎ場にある夫は

「どうだいうまく行くか」

と云ふて後向きになつて見たりします。



女削屋さん默つたまゝ一生懸命削つて居ります。

彼の女の手は可弱く鉋屑に埋れても、顔には雄々しき勇者の様な豫言者を偲ばす誇りが漲つて居ります。

その大鋸で引かれたまゝの荒板は彼女の手に依つて生れ變つた様に美しく、香りさえ發して削れます。彼女の胸にはきつと、此の汚れに汚れた社會をも大きな大きな鉋を持つて行つて思ひきり削り廻つて歩いて、更生、温味、扶助、赦令の愛と總ての人に愛せらるべき社會をかうばしき香の板の木目からそれを想像したに違ひありません。

鉋を研ぎ了へた削屋さんは又シャーシャーと音を立てながら削りはじめました。

どんな歌詞であつたか今は憶つて居りませんが、夫が削る鉋の音に合せて歌ひ出します歌に彼の女は板で「こつこつ」そこいらを叩き乍ら拍子を取つたり、そうして彼女も後の歌詞に付け足したりしてて歌ひます。

その愉快そうな睦じそうな彼等の一日の勞働は朝の七時頃から夕邊に至るのでありました。

一日の仕事を了へた彼等夫婦、山の様に積まれた枝と鉋屑の中に座つてる削屋さんは叫びました。

「今日は何枚削れた數へて見い」

彼等夫婦の一日の勞働の價それは一枚削つて何錢の割にあるのですが、どんなに削つても三圓を越さなかつたのです。

そうして、その倉庫の建築は幾ケ月かの後に彼等夫婦の削屋さんの削つた屋根板も屋根に張られて竣工したことです。無論彼の女建築家の削つた板も屋根に張られたのです。

其の建築の竣工の頃、女建築家は神戸の或る女性覺醒運動の演壇に立つて堂々と、社會はどうしてももう一度新しく削り直さねばならないと叫んで居ります。

夜半、物靜かな居留地の街の倉庫の屋根裏の板達は何んと言つて物語つて居りませうか。今頃になると毎年私はそれを憶ひ出しては、春だ春だと云ふ氣がして來ます。



支那における打倒妾制度運動

引田哲一郎

上海の婦女協會によつて今度「第二夫人撤廢論」が有力に唱へはじめられた。

この「第二夫人撤廢論」に對して眞正面から反對する程の圖々しさは、如何に舊い頭の軍閥と雖も持ち合はしてゐない。實際問題としては、しかし、現今の教養ある讀書人は第二夫人の問題が今更のやうに論議されることをむしろ不可思議に思つてゐる位だ。されぱといつて決して無關心であるわけはない。近代支那の家庭では「妾制度は不都合である、人道問題の立場から是非廢されなければならぬ」といふ道德的感情以上にその經濟的の原因が第二夫人を持つことを妨げてゐる。

先般開かれた上海婦女協會の總會で、國民政府が第二夫人撤廢の法令を發布すべき旨の請願決議を通過せしめたが、右について、同協會の鬪士陳女史の語るところによれば「法律上正當に結婚した男が第二夫人を有つなどいふことは決して許さるべきことでない、合法的に正的な手續を踏んで結婚してをり乍ら、彼が更に妾を蓄るが如き場合、彼は當然逮捕、處刑されなければならぬ。その罪に對し彼は正しく罰嚴に處せらるのが當然である。

従來、支那の婦女は彼女等の歩みに於て余りに緩漫であり男子の所業に對して余りに寛大であつた。男性はすつかりいゝ氣になつてゐる、その理由は要するに過去數世紀にわたり支那の婦女が余りにも男子の支配下に甘んじ、勝手な目に遭はされ續けて來た、男性の氣まぐれ、出來心や勝手放題な要

求に從ひ過ぎて來たことにある。しかし時はついに來たのである。横暴なる男性の覊絆から婦女の脱するの時がとう〱やつて來た、鐵はその熱せる時に於て打たれなければならぬ、しかしいくら待つても解放の鐵は白熱して來ない、最早や妾達は待つてはをれない、しびれが切れたのだ、敢然として打つ時は今だ」

といふのである。

彼女等の口號は「打倒男性之横暴」である、彼女達の叫びは眞劍だ、血みどろだ。

だが、われ等は支那における第二夫人撤廢を一方法令によつて促進すると同時に、更に彼女達の熱烈なる解放運動の燃燒がなければならぬと思ふ。この問題は決して政府のお座なりの法令のみに任して置けない。否、法令に多くを期待することが出來ないといふのが一層適切でさへあろう、妾制度(Concubinage)は支那に於ては確立された一組織である。それ故にこの制度が法律によつて廢除される前に、まづかやうな制度を生むに至つた――そしてかゝる制度の存在を久しきにわたつて許し來つた――その原動力を除去するの必要があるのである。

われ等の信ずるところによれば妾制度の如き不都合、非人道的な存在は、遠からざる將來に「過去の問題」となるべき運命にある、そしてその日は法令によつて齎らされるものではなくて、必ずや神聖なる純眞幸福なる二つの相寄る魂の融合によつてのみ將來されるものである。以下少しく妾制度に關し信ずる所に從つて檢討を加へて見やう。

第一

敎養ある支那の青年男女にあつては個人の自由が重んぜられ、漸く結婚も自由選擇になつて來た。兩親の意思だけによる緣組の代りに個人同志の自由選擇となつて來た。從來の親權制度の下にあつては、よりよき相手、もしくはいやな相手との結婚は全く彼等の兩親の希望、意思一つでなされた。極めて少數の例外は勿論あるが、人間的一致乃至は相互のよりよき諒解は右のやうな親權制度即ち兩親の意思ばかりでなされる緣談とり取きめ制度の下に於ては、まづあり得ないとする方が妥當である。離婚にまで行かないとしてもそれはたゞ運命、沒法子(致方がない)と觀念するに止まる。而して極めて少數なローマンチックな魂の所有者のみが、兩親の意思に反し、その親戚から指彈され乍ら、自由の天地に向つて勇

敢に飛躍した。シネマやお芝居によつて演ぜられる自由戀愛のコースはあらゆる桎梏を逃れて大膽に振舞ふそれ等の尖端を歩む青年子女に限られた。しかもそれ等は不品行、不身持親不幸の名の下に批判され、とかく過當に惡くあげつろはれた。

一般に昔時の支那女性は彼女の夫に從順であれと教育されたが、必しも彼を愛せねばならぬといふ風には教育されなかつた。現今に於て一般に解せられる相愛もしくは戀愛は過去の禮儀正しい社會に於ては余り口にされなかつた。當時において、男は彼の妻を彼の意思に從つて選擇することが出來ないがしかし幸ひなことには、彼の經濟狀態が許すならば彼は彼の妻によつて充たし得ないものを、妾を選び畜へることによつて充たした。だが時代は斷然推移してもはやかやうな不合理、不適法な制度は許されなくなつたのだ、そして第二夫人を畜へるといふが如き不都合千萬なる缺陷もしくは誘因も漸く失はれつゝある。

第二

近代支那女性はその經濟觀念に於て獨立の必要を認識しはじめた。解放運動は即ち女性の經濟的獨立にありと自覺しさかんに職業を求めて街頭に進出する。多くの彼女達は彼女自身に何等かの職業を有ち、もしくは何時でも職業婦人になり得るやうに修業を積むことによつて、必要する場合、彼女自身を支持し得るやうになつて來たから彼女達は最早や男性の意思のまゝに自由自在に左右されなくなつた。そして男性の生活における單なる玩弄物であることをやめてしまつた、これは先驅者ノラが人形の家を出てからこの方ずいぶんと永い年月を經た後、支那に於て漸く見ることが出來た驚くべき現象なのである。如上の觀點からするも女性が經濟的に獨立することこそ、抑々妾制度を廢除することの重大な原因を形成するのである。

第三

支那における離婚は國民革命以來うんと容易になつた、非常に容易になつたと言へないにしてもやうやく造作なく離婚し得るやうになつたことは確かである。

最近に於ける驚くべき離婚件數の增加は先進國アメリカに匹敵するものがあるといはれる。それにしても現今の離婚においては過去に於て見られたやうな屈辱、忍耐はほとんど消滅した、これに對して守舊派は「われ亦夢に孔孟を見ず」と

か何とかいつて悲嘆にくれるが何も彼も過渡期の支那だ、自由を得たる支那の青年男女は必ずや彼等の良心の命するところに從つて立派に自らを始末し得るであらう。而して第二夫人を蓄ふる所の彼は遠からず制定されるであらうところの法律の制裁を受け、もしくは第二夫人を有つことによつて彼自身の選擇の伴侶を失ふことになるだらう。

第四

第二夫人は時に妻の不妊の故を以て蓄へられた。勿論、これは血統の繼續を要求するところの支那の家族制度の故であるが、相續人のない場合に妾を置いてもかまはない（大いに蓄ふべし、貯へ得る位の男子は甲斐性あるもの、黄金か權力かのいづれかを持つが故に偉いとさへされた）といふ思想が正當なるかの如くに考へられた。而してたいていの人がこれに對し疑念をさしはさまなかつたのである。考ふれば極めて不可解な謎であるが、子なき貞節なる妻はそれ故にその家族に夫の血を引いた子供を得るかも知れないといふ希望を持つて、彼女の夫のために妾が選ばれるのを默認し、これと同居してさまで紛擾、家庭爭議を起すに至らなかつたことである（しかも現在の支那に於てもこの事實は少くない、流石に國民政府となつてからは表面一夫一婦を標榜してゐるものゝ洗つて見れば片端しから要人連中第二夫人を蓄へてゐるのである）。

近代的教育を施された支那の男女性は、しかし乍ら漸く目醒めた。彼等の責任感は家族的から社會的へと徐々に置き換へられた、かくて後繼者を得る目的のために第二夫人を蓄へる習慣、家族制度の桎梏は次第に消滅の過程を辿りつゝある。

第五

妾はまた、ある時は都合よき侍女として老人達の湯たんぽ代りに蓄へられた、金と閑暇のある前清時代の大官連は漸く老境に入るに及んで若き妾を蓄へることに興味をもちはじめ、これを誇りとした。かやうな妾は實際において老人の看護婦ともいふべきものである。如何に金のためとはいへ老人の湯たんぽ代りとして身賣りをする無恥なる彼女達を哀れむ前にしかし乍ら、われ等は娼婦制度の存在と共にこの妾制度の存在を悲しむべきだ。現時に於ては如何に何でも、老人に仕へる目的のために妾として若き乙女の身を枯らすが如き悲しむべき事實は漸く減少しつゝある。

第六

（十三頁へつゞく）

協力の世界に信愛を置け

——消費組合婦人運動に就て——

丸岡秀子

消費組合の經營に實際、當つてゐる人々は勿論の事、少くとも消費組合に關心を持つてゐる總ての人々から一樣に希望し、叫ばれてゐる所の問題は『消費組合に婦人を參加せしめよ、婦人の參加なくしては消費組合の發展は望まれぬ』といふ事である。

實際財布を握つて毎日のお菜の心配をしてゐる私共婦人の側から云つてもそれは勿論異議の無い事であり、むしろ單なる參加だけでなくして婦人の手に依つて消費組合が營まれなければならぬ筈であるとさへ考へて居る者であつて、その事に就いては最早や、何を云ふ余地もない。從つて今、私共の前に横はつてゐる問題は『それならば如何にしてそれ等の婦人を組織し、組合を理解させて行くか』といふ具體的な問題である。

その爲めには家庭會なり、婦人部なりの組織をせねばなら

◆消費組合運動者の懇親◆

三月一日夜東京ステーションホテルで消費組合運動者の懇親會がありました。集會者六十人近く。中々賑やかな集りでありました。神戸消費組合の理事長福井捨一氏が上京されたのを好機に、各方面の人を招待せらせられたのでした。

纏め、議題を設けて討論しやうといふのでもなく、何か決議案でもこゝで作ろうといふわけでもない、お互ひに日本の消費組合運動のために骨を折つてゐる者同志でゐ乍ら、道で會つても全然知らないで過ぎるといふのはまことにさみしい事でもあり、この際思ひ切りいろ〳〵と消費組合運動に就いて話し合つたら、又、案外な拾ひ物をするかも知ないと思ふのであります――と、司會者福井氏のくだけた挨拶に初まりて議長は志立鐵次郎氏。

まづ家庭購買組合の藤田氏。神戸の消費組合が今日のやうに發展を遂げることが出來たのは、人、そのよろしきを得た點も大いにあるであろうが、現金賣りを採用して十年一日の如く決してゆづらなかつた豪さにあると云つていゝであろうと思ふといふ話から、遲まき乍ら、現在現金賣制を擴めるために骨を折つてゐる、云云とのことでありました。

デパートでも、公設市場でも、みんな現金賣りを實行してゐるのに、消費組合が現金賣りを實行出來ないといふことは確かに遺憾なことであります。然し、多すぎる小賣商人同志の競爭はいきほひ、

ぬと云はれてゐる。その事にも議論の何等余地はない。然しながら、それには一體どうして組織して行くか？　といふ實際的な問題にぶつからねばならない。而も日本家屋の様式が手輕に外出する事に實に不便であつたり、大勢の子供を抱へて朝から晩迄、炊事に、洗濯に、掃除に、縫物にと追はれてゐる婦人のどつさりの雑務を思ふ時、たとひ一時間の會合に出掛けるにしても如何に大變であるかといふ事が余りにはつきり考へられる。而もそれ等家庭婦人は長いこと家庭内に蟄居してゐた習慣も加はつてゐる事も合せ考へねばならない。こうした狀態を改めて樂なものになし、それに依つて婦人の生活が幸福になるのである爲めの組合であるとはいへ、現實の問題としては右の様な困難に當面してゐる。

又、それ等の困難を押し切つて漸く婦人部なり、家庭會なりを曲りなりにも組織したとしてもそれを永續させ、發展させて行く爲めには常に尠からぬ努力と相當の困難を伴ふ事は事實である。

こう考へてみると、消費組合運動に於いても全く一つの小學校教育の過程を持たねばならぬものであるといふ事を感じさせられる、小さくとも何でも、現に角組織された組合員が

いろんな形で勉强をし合ふ様になつてゐるから、その商人群と入り混つて、組合が、組合運動のためにはぜひ現金賣りを、と云つてみた處で中々六ケしく、大多數の組合は現金制の採用が出來ないでゐます。そのために組合の發展がどれ位阻止されてゐるかはかり知れません。消費組合でかけ倒れ金のために經營難におち入つてゐるといふものもあるのですからむしろ驚くべきでせう。

賀川豊彦氏は曾つて、現金賣りでない店は最少限度にみつもつても五倍の資本を用意してかゝらねばならぬ、と皮肉られたことがありました。即、第一、店に並べておく資本、一ケ月に賣るだけの資本、月末まで貸しておく資本、倒されてしまふ分の準備資本、月末までの家族の生計維持費。もしこれが現金賣りだつたら、金の廻轉が早いからずつと安上りになるのであります。デパートや市場が安く賣れるのは、多く賣れる點にもあるが、現金取引であるために金利安にあがる點も大きいのであります。小賣商人の中では酒屋が一番貸倒れが多いさうです。普通にどこの店でも、相當の貸倒れがあるもので、東京の如きは、酒や米や乾物屋など三割見當の貸倒れをつねに賣値の中に加算してゐると、商大の上田教授が席上で云つてゐられました。主婦の心得一つにかゝつてゐる現金買ひの實行、みんなが現金買ひを實行すれば、經濟事情は大分變つてまゐります。

次に中央金庫の西川三郎氏を初め各方面の人から、消費組合の運動に婦人が加はらない限りほんとうの發展は遂げられないといふことが種々論ぜられました。うつかりすると、この日の會は、消費組合運動の權威者たちが、僅か七八人の婦人消費組合運動者を前に並

高等科であるならば、未組織の家庭婦人は尋常五六年に考へられ樣し、之から家庭を持つて主婦となる未來を持つ娘さんは尋常三四年とも考へられる。その凡てが大切であると共に之等の過程にある總ての人々にとつて、その過程に適合した方法を取つて運動を進めて行かねばならない。

娘さんには兎に角、小學校なり、女學校なりの家事教育を根本的に改善して、消費者本位の經濟組織を中心に教育がなされる必要がある。

未組織の婦人を組織する爲めにはそれ等婦人の最も切實な當面の要求を握つて、例へば産兒制限とか、共同洗濯とか、それ等の要求を中心に組織するといふ事が必要であらう。

又、家庭會なり婦人部なりに組織された婦人を益々發展させて行く爲めにどうしたらよいか。

長い年月に亘つては種々な社會的、政治的問題に迄訓練され組織されてゆかねばならぬ事は勿論であるが、消費組合運動の初期に於ける而も婦人のこの運動に對する自覺の極めて初歩にある日本の現狀に於いては矢張りステツプ、アンド、ステツプで、此處に於いても亦一年生の過程から初めて行かねばならぬと思ふ。私共婦人として取り上げ度い、又取り上げねばならぬ問題は、數へ上げ切れぬ程あるが、私は暫くそれ等に目をつむつて—そこへ迄發展する爲めに目をつむつて—

べて、もつと働け、もつと熱心になれ、と、詰問をかねた激勵會に早變りしたか、と思はれた程それ程に婦人消費組合運動については大きな話の華が咲いたわけでした。

私たちは勿論、婦人消費組合主義者。今日の消費組合が男子に牛耳られてゐるために、そのために各個の家庭婦人を熱心に引ずり出して來てくれない點さへ、尠くないと思つてゐる私たちけ、そんな水掛論で議論を鬪はすのも面倒臭いほどです。もつと澤山の婦人に消費組合の何たるかを理解して貰ひ、組合の仕事にもつと熱心に參加して貰ひ、組合を中心にして物價問題の解決をはかつてゆき、ひいていろ／＼な婦人運動の出發點を消費組合におき据へるところまで早く發達させてゆかねはならぬことを思ふのであります。

それについては、私は、一昨年の創立にかゝる婦人消費組合協會の働くべき部署が非常に多いことを思はずにゐられません。特にどの消費組合に、と偏ることをせすに成べく凡ての消費組合に、そのとき、その處で、加入し易いところを紹介し、廣く消費組合運動についての理解を婦人の間に深めてゆくこと、各地の婦人團體を消費組合主義に誘ひ合せるためにも、今日までの私たちの努力は決して結構でなかつたことを信じてゐます。各自がその加入してゐるところの組合の婦人部のために協力すると同時に、特に、協會のやうな立場に立つ婦人運動に興味をもちうる婦人たちが力をあはせて、全般的な家庭婦人の問題に働いてゆかねばならぬと思ふのです。

第三に問題となつた點は、群小組合が割據してゐる現狀を、何とか統一聯合させて能率をあげてゆかねばならぬといふことでありま

現在の組合員の固い結合の爲めに手近かな問題から入つて行き度い。或は、料理の講習もよからう、又編物の講習もよからう。組合の精神に基づいて私共婦人の日常の要求を滿たして行く事が、歩一歩、發展する事ではあるが、それと共にそうした經濟的な實際的な協力の上に信愛を置き度い。

消費組合運動のみならず一般社會運動に就いてみても私は其の同志の信愛といふ事が余りに無視されて居はしないかといふ寂しさを持つ者である。私は私共の鬪爭に勇敢であればある程、私共は内部の即ち同志間の信愛を要求せずには居られないのが自然の要求ではあるまいか。

その點から考へて私は英國の婦人ギルドが、永い年月に亙つて政治的に社會的に實に驚くべき訓練がなされ、女性としての立場を擁護し、主張すると共に、一面に於いては女性として優雅な職分を果してゐる例として、組合員の家に病人があると見れば、直ちにあらゆる方法を以て之を支持し、その厚き看護によつて年々二百人からの人々が、短期間に健康を回復してゐるといふ記事を先、よんで眼頭を熱くした。これこそ私共消費組合の目指す所ではなからうか。

經濟的に協力すると共にその上にこの信愛を置いた英國の婦人ギルドの將來は、羨やましくも亦確固たる基礎を打ちたてた。

協力の上に信愛を置け、再び自分に云ひきかせて筆を擱く。

した。全く現在の消費組合は東京は云ふまでもなく、各地で、消費組合購買組合が分れて存在してゐるばかりでなく、睨み合ひ排擊し合つて組合員の爭奪さへやつてゐます。普通の商人の標語が、「みんなあつちへ行け」といふ、利己的なものであるに反して「みんな一つ處へ集まらう」といふのが消費組合のモツトウです。勢力爭ひやちよつとした感情問題を根にもつてこの消費組合運動が幾つにも分れるといふことは何と云つても不可ません。殊に消費組合の如き、大きく共同支入れをし、共同生産機關を持つほど組合が有利にまわり、配達區域でも、組合員の爭奪をする代りに、相互に協定して互ひに便宜を計つたら節約出來る費用や勞力も決して僅少でない筈です。

婦人の友社の羽仁說子氏が、未だ短い期間であるけれどと、前置きをして消費組合が小さな商人から客を奪ふだけに留つて、中小の企業家や、仲買人、問屋とは相變らず結んで仕事をやつてゆかねばならぬことにこの頃みんなで苦しみを感じてゐる、といふ重要な當面の問題を提出して下さつた。これは考へなければならぬ問題である。イギリス、ロシア、デンマルク、その他發達した消費組合國では組合が自らの力で生產し、加工するのであるが、日本のやうに、たゞ小賣商人いぢめだけに終つて、大中の資本家のための土盛りを相變らずしてゐるやうな中途半破な取次ぎ販賣は、早くやめてしまつて生產者と消費者の間の密接な連りを組合に依つて作りあげてゆくべきであります。（む）

婦人運動ニュース

▲民政黨の大勝利

二月二十日に行はれた第二次普通選擧は次のやうに民政黨の大勝に歸しました。

民政黨	二七三
政友會	一七四
國民同志會	六
無產黨	五
革新黨	三
中立	五
計	四六六

民政黨は實に五百四十八萬近い總得票をえてゐるので、全國有權者の半分以上が民政黨の候補者に入れました。

無產政黨が分裂のために慘敗したことゝ中立議員が枕をならべて多數に討死したことが目立つてゐます。中立が破れたのはその灰色的存在がきらはれたにもよりませうが買收費がなかつたにもありませう。

▲血に狂ふ母親の慘劇

千駄谷に乾物屋の妻が夫と三人の愛兒を殺して血に狂うて自殺したといふ慘劇が傳へられた、その翌日も、つゞいてかうした慘劇が報ぜられた。母親が生活難からうける苦しみは夫のそれより數倍痛烈である證でないでせうか。



女の貞操料

女の賣淫料の最高が拾圓、最低が三十錢、但しこれはナゴヤ市門前町で昨年中に檢擧した賣春婦による調べであります。

その內酌婦一六人、女中一五人、人妻五、藝妓五、仲左三、無職一七、合計六十一人の調べでありますが、三日乃至二十九日の拘留處分をうけました。



◆師範學校高等師範の卒業生はいつの不況時代でも絕對安全地帶とされてゐたものが、約三百五十名といふおびたゞしい數に上る失業者を出すといふことであります。これに私立大學や實業專門學校の有資格者を合算するならば優に一萬人の多きに上るだらうとのことであります。そのあふれが、外の大學校や中等學校小學校卒業生と職業紹介所をおとづれて來る者の數はおびたゞしいものであるさうです。かうしてお互ひに俸給引下げの大勢に拍車をかけ失職ごつこをしてゐるやうなものであります。◆

▲失業洪水就職地獄

全國的にみて失業者の總數は百萬人以上に上ぼるだらうといはれてゐます。喰ふに食なく働きたくても仕事のない澤山の人が街頭にあふれてゐるのです。四月は新卒業が山のやうに校門を追はれるのですが、これも例年にない就職率の低さだといふことです。

民政黨內閣の緊縮政策と產業合理化は、少數の財あるものを保護して大多數の勤勞階級から仕事と食を奪ふものだといふ呪ひの聲をしきりに聞きます。



（婦人代表の出發圖）

花の如き 遣米答禮使

時事新報社では、震災當時のアメリカの好意を謝するために日本代表として花の如き五人の良家の令嬢を選抜して遣米答禮使としてつかはしました。

東京聯合婦人會では、振袖や高島田に結うことは、決して日本婦人の一般的代表でないから、束髮に普通の和服を着せて出すこと、日本婦人のたしなみとして仕舞、茶、生花を時に應じて紹介してほしい、と希望條件を申出ました。主催者側に於ても婦人團體の意のある處を汲みとつたさうであります。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

と一寸、小學校敎員の俸給低減の問題が議者の心をひきました。政府から、地方財源を一割內外けづつて緊縮せよ、といふお達しが來たのですが、地方費の內で一番大きな部分を占めてゐるものは敎育費即ち小學校敎員の俸給なのですからいきほひ減俸をくふより外なくなつたのです。

政府の弱いものいぢめは、官吏の俸給一割減の失敗にこりて心を入れかへたかと見えたのに又、この擧に出ました。一方、義務敎育費の國庫補助金一千萬圓增しとのことです。これは漫然たる地方費の膨張以上の何役にも立たぬ金子です。どうも政治家のやる處はウラがあつて打算的でいけない。

◆

丸の內邊の某生命保險會社に勤めてゐる男に嫁いで來て幸福

▲東京市十年計畫の社會事業

堀切東京市長は賀川豐彥氏と協議の末、社會事業についての十ヶ年計畫の大方針をたてゝ實行に入ることにしました。

まづ、三萬餘人をふくむ市の從業員のために共濟組合をおこし、相互扶助に依る消費組合を設け、さらに、全體の市民に對して一人一ヶ月三十錢拂込みの疾病保險制度をまうけること、庶民のための銀行をおいて簡易に金融の道が立つやうにする一方、住宅組合を發達させて月賦償却の方法で市營の住宅を澤山に作るといふにあります。賀川氏の組合式社會政策の徹底をこゝにみる、といふべきでありませう。

▲無產政黨合同の氣運動く

——さて、實現は六ケしいか——

今度の總選擧に慘敗した無產各黨は、今さらのやうに合同の必要にあせり出し合同のための協議會をいろ／＼な形式を以て重ねてゐます。

比較的自由な立場にある下中彌三郎氏、堺利彥氏や賀川豐彥氏、杉山元治郎氏らが音頭とりですが、勞農黨は合同に依つて社會民主主義者を克服するのだ、といふ聲明書を出してすでに事前におだやかでない挑戰を初めてゐる一方社會民衆黨は、社會民主主義に依る合同でなければ、駄目だと强調してゐるのですが、合同運動者の中には、堺、下中氏らのやうに全體の合同を唱へる人と賀川氏や全民黨、大衆黨の一派の人たちのやうに可能な黨派間の合同からさきに行ふことを主張するのと二つがあるやうであります。

すべて、地方無產黨として個別的に存在してゐた秋田、大阪、東京、千葉、中國、等は合同して黨を結成無產政黨全國合同の柏車たらんと稱してゐます。

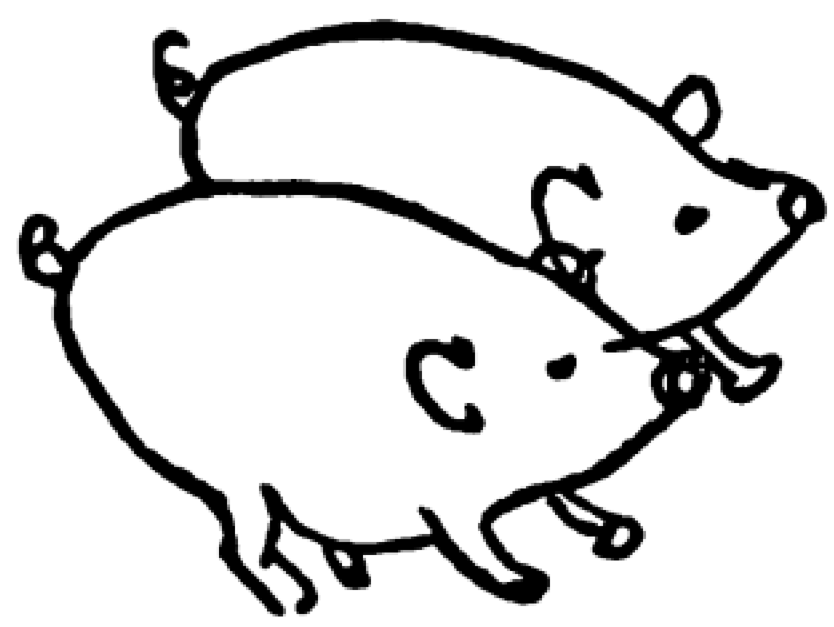
に暮してゐた女、この二月に夫が失業してから米の代にもこと缺くやうになつた。

そこへ、彼女の美ぼうに云ひよつて來てゐた男子の與へる金子に、つい眼がくらんで關係をつけてしまつた。離婚さわぎがもち上つてから、どうしても夫と別れるのは辛い、こんなことになつたのも夫の心配を少しでも輕くしたいと思つての心得ちがひであつた、取りなしてほしいと警視廳人事課へ泣きこんで來た由。

◆

かと思ふと、宇都宮高等女學校の現職の敎師が、その妻、これも（女敎師）と示しあはせて敎へ子の中から見目よき娘を誘つては、結婚媒介所の看板で春をかせがせて手數料をはねる商賣を內職にしてゐたとは、全く恐ろしい世の中。

●ゴミを利用して豚を飼ふ



東京市内から出る一日のゴミの總量二十四萬貫、これを如何に處分するかは長い間の懸案であつたが、豚を五萬頭飼育しうることを知つたので、差あたり試驗的に二頭を飼ひ初めたさうである。二十四萬貫の內、臺所の殘物だけが五萬貫はある由で紙屑や木屑泥屑とこれを分類する必要があるさうである。

▲交涉團體の資格を認めず

衆議院に於て民政黨が壓倒的多數を制してゐるので、政友會の一七四名を除く他の諸黨は、無產黨、中立、革新、國同を合せても交涉團體資格をえる二十五名になるには五名の不足を來たしてゐる。從つて、院則によれば、これらの小黨は常任委員會にも、各種の重要法案の委員會にもわりあてられぬことになり、どの委員會でも發言する機會を奪はれてゐるわけである。

これに對して、何れも特種の主張の上に立つ各小黨は默つてはゐず、普選の今日少數黨の言論を壓するは時代錯誤だといふので、尾崎咢堂、清瀨一郎、大山郁夫氏らが抗議中である。

▲參政權を附與せよと首相に勸告

去年の夏行はれたベルリンに於ける萬國婦人參政權大會に於て、まだ婦人に參政權を與へてゐない國に對して勸說の書面を發送することを決議したのであつた。

この書面がさき頃日本に來た。本部書記エミリー・グール女史會長コーベット・アシュビー女史の連名で日本の濱口首相にあてゝ、すみやかに日本婦人に參政權を與へよ、と云つて來た。日本の參政權團體の代表者が近く、これを首相に手渡しするさうである。

◆

商工省の橫山政務次官は、電氣會社の橫暴なのに痛棒を喰はせて曰く、

本所深川邊の貧民街では三ヶ月以上も前の電燈料を徵收されるさうな。借家人は前住人の不拂ひの分を支拂はない間は灯りをつけてくれぬといふでないか。それでゐて、大事な時に停電をくつたり、故障が出たりしてもその損害をもつてゆき所がないなんて「餘り需要者泣かせでないか。もつと需要者本位に出直して來い」

これを聞いてゐた電氣會社の重役連「ハイ〳〵、贊成でございます」と。但、需要者が團結して會社に對抗するのでなければ中々折れて出るものぢやあない。

農村消費組合運動について

福永久壽衛

お手紙をみながら、あんなに無理にあなたをこんな遠い處まで引ばり出すことになつたのを申しわけなく思ひます。

計盡してゐる消費組合講習會に於ては、細かい數字や理論やを詰めこむよりも組合運動に對する熱情と理想を與へてゆくことだと考へてゐます。

農村の實情に通ずれば通ずるほど、農村では消費組合一點ばりの講演でなく、生産組合、販賣組合、利用組合、信用組合の正しい歩み方を示してゆかなければ効果がない様に思はれます。何れもへ通ずる大きな組合運動の精神を吹きこみ、正しい方法を徹底させることが必要なのです。この點に於て岡本利吉氏は偉いとしみじみ思ひます。トトミアンツの産業組合原論にも學ぶ處が多いことを、私は農村に入つて一層思はせられてゐます。改革の重心をいはゆる政治におかず農村各地の組合運動におかねばならぬ理由を叫ばねばなりませぬ。

婦人消費組合運動の方は一層多難な道と考へます。ぜひやりとげて頂き度い。

こちらにも昨年十一月濱口内閣が生れたときに成立した婦人團體があります。市内外の名士夫人を中心としたもので、これまで壇上に立つたこともない婦人までが郡部へ出張して演壇に立ち婦人會を作らす運動を進めて中々熱心です。目標とするところはいはゆる節約と貯金でありますが、高知共働社の組合員中にも大分出てゐる婦人がありますが、消費組合の消の一字も云はれてゐないので組合運動者としてまことに不満な次第です。

工場に動く者の叫び

T・S

私達の生活、それはとても憂欝な、單調なものに過ぎません。多くの姉妹達は何の刺戟もなく、默々として生きて行きます。總理大臣がどうあらうと、政府がどうあらうと、そんなことは度外視してゐます。これ等を眺める眸、何れ來るべき時に何をモツトーとして走り附けるだらうと不安にならざるを得ません。

彼女達は安々と何事にも屈從して行ける人間です。自分達はこれ等をして少しでも自分達女性解放のために、全力を捧げて必死と成つて、働いてゐられる味方のあることを感知せしめなければならないと思ひます。

連山の頂きは白雪におほはれて寒い山颪がヒユウヒユウと身にしみます。凍て附いた坂道を無數の星を仰ぎ乍ら、又今日の不成績をぞつと思い浮べて工場に急ぎます。畑にも土手にも眞白に霜が下りて手も足もあまりの冷たさに感じが無くなつた様に成ります。まだ夜が明け切らないのです。皆暖かさうに眠りつゞけてゐる。總ての人が幸福さうに思はれる。自分達ばかりが一たいどうしてこんなにまで苦勞しなければならないんだらう、とこんな時いつも思ふのです。

みんな仕事着に着換へて洗面所はおし合いへし合ひの大混雑です。禮儀もヘチヤも無い、吾れ一にとお金を得るために焦せつてゐる。何のためにこんなにまで精神が疲れ切つてゐるのでせう。

何がこんなにまで頽廢せしめたのか。何がこんなにまで魂の血を吸い取つたのか？それを知り度い。それを知らしめ度い！

眞白い湯氣を立てゝ皮肉な笑ひの樣な響きが工場一ぱいにみなぎり始めると釜の中にお湯がぐら付き出す。耳をつんざく樣な魂を刺す樣な仕事始めの鈴が鳴る。皆吾れ一にと湯氣の中に吸ひ込まれて行く。皆口をつぐんで働く。でもお喋りをすると罰を取られるから恐ろしいのです。

繭の毒にかまれて指先の皮が薄く成る。血がにじむ、それでも何じつと働きつゞける。そんな生活が農村の下級女性達には十有餘年とつゞくのが當然の樣に思はれてゐるのです。そして、道を歩めば蛹臭いと罵笑を浴びせかけられるのです。

「美しい自然に包まれて、清い小川を眺めて、自分達は自然のゆり籠の中に育まれて行く。」そんなことは私達の云ふべき幸福感ではありません。私たちにはしめつぽい湯氣の立ちこもつた工場が待ち受けてゐて奥れるばかりです。暗い墓道から一人でもいゝ二人でもいゝ仲間が出てくれないかと頭をもたげてみます。

自分達に與へられた、何ものも無いことに氣がつく。總てが上流階級のために造られ、そなへられてゐることに驚くばかりです。それでいゝのでせうか。「金、對、勞働」おゝその冷え切つた社會から自分達のために自覺しなければならない！

各農村に作られてゐる所の女子青年團その他それ等が、現在どんな働きをなしてゐるか。表面はしつかりした確個たるものに造られてゐても、充實しないカラツポの内容を持つて、唯形式ばつてゐるばかりです。

縣下に於いてだけでも幾萬人かの製糸工場に働ける吾等の同胞よ。朝晩星を眺めて往復する、しめつぽい湯氣の中の明け暮れ單調な一日がくり返される丈けではあまりに悲しい。

それでゐて賃金が安い。それに何甘んじてゐられると云ふのか。自分達の社會だ、少しは自由に住み良い社會に住んでみ度いとは思はないのか、と私は聞いてみたい。

■■■

横口しづ子

とう／＼總選擧の日が來ました。何となくざわめきが匂ひまわつてゐるやうです。

喜ぶべきことは、私たちのやうなこんな田舍町の女にも、だん／＼政談演說を聞いて來やうといふ考へが出來てきたことです。去年あたりまで演說會と云へば私と、私の姉妹たちが何時も顏をみせてゐる位のことでした。（そのために隨分と、お轉婆だとか何だとか云はれたものでしたが）

保守的な彼女たちがさういふ集りに出るやうになつたことは確かに大きな進步です。果して彼女たちが政治的自覺を持つて來たかどうかはわかりませんが、然し、ちよつとした興味からでもそれを聞く樣になつて來たのですから、これからおひ／＼よくなりませう――そのために既成政黨に惑はされては大變ですが――

どんなに壓迫をされても、ふみつけられても、それがいかにも女性の本來であるかの樣に默つて服從、といふより盲從してゐる彼女たちが眞に目覺めて立つ日の來ることを祈らないではゐられないのです。どうぞ、いろ〳〵今後ともに指導下さいますやう。及ばず乍ら、この土地で私に出來ることで御一緒な鬪ひにお仲間入りしてゆきたうございます。

■■■ 津久井郡より

井上なか子

選擧狀況を投稿せよとのみ言葉ほんとに恐縮にたへません、選擧の樣子と申しましても、私の村はほんとに田舍の田舍の又その田舍に位する方でございますのでその選擧氣分さへ味はへない樣なところでございます。それに私の郡は有權者が少ないためでございませう、演說等も六人の立候補の中三名のみしか見えられません。それも郡內數ケ所のみで、私の村等では隣村まで出張しなければお話も伺へません。それに政治の知識等一村數名の人を除く外は殆んどない樣に思はれます。

私、丁度暇でございましたから既成政黨のみしか伺へませんでしたが聞きに參りましたら、女の人は一人も二度ながら居りませんのでほんに心淋しい氣がいたしました。

然しかうした演說も、私見た樣な者には何もわからない爲ではございませうが滿足を與へられる樣な個所はございませんでした。人の話により、讀書すればする程現在の政治がたまらなくなる樣な氣がいたしてなりません。只新聞によりそのにぎやかさそう〳〵しさをそれこそ想像するのみでございます。

こんな事を申しますと先生にそんな呑氣な氣分で居てはいけないその呑氣さにのまれ、それに滿足してはいけないとお小言を頂戴いたすのかもわかりませんが、然し食べる事のみに、それこそあへいでゐる現狀ではどうする事も出來ない、とお答へするより他はなく思はれます。淸き一票は投じなくてもすむが、食べずには居られぬとの一般の人の言葉です。ほんとにすべては考へさせられる事のみで手も足も出ない愚な者でございます。

（後略）

この欄には、毎月、實感のこもつたよい原稿が集るので、先輩の先生がたも一番でこゝに氣をつけてみてゐて下さいます。

思つたまゝに、感じたまゝに、腹の立つたまゝにそれを書き留めておくことはよいことです。仲間の人がそれをよんで、同感したり、はげまされたり、することが出來るのも嬉しいことです。

みんなで大いに書きませう。どし〳〵書き送つて下さい！

●本欄を守れ！

闘志を繼ぐ

しげ子

「一ヒヒル五ツク　カエルサヨコ」

昨年末飯田町の驛へ中央線で歸る英子を送つて呉れて別れたきり一度の文通もしないで居た小夜子から突然こんな電報を受取つて一時驚いた。殊更にあの短文の中にカエルの字を入れてあるのを見れば再び上京の意志はないのかしら、それとも鄕愁にでもおそはれて歸つて來るのかしら、小夜子に限つてそんな筈はないけど。師走の風は寒い時計が四時をまわると急々して仕舞つてすぐに出かけた。

どんなにゆつくりと歩いても十五分もあれば結構來られる處を電車に乘つて來て見れば後もう一時間餘りあるので思はず可笑しくなつて獨りで顔を赤くした。去年東京驛へ着いた時通知した時刻より列車が十分早く着いて誰も出て來て呉れてないので癇癪玉が破裂しかけた處へ急いで驅けて來る小夜子を見て、「最少し早く來て呉れても好いのに」と皮肉つたら反對に「東京の女は汽車の着く三十分も一時間も前から來て待つてる樣な馬鹿らしい事はしません、ほら百枝さんだつてあれ今、來てるでしよう」と。

一年經た今日英子はやつぱり田舍者から一歩も出て居ない自分を恥かしくも思つた。

入場券を買つてプラツトホームへ立つた。

程なく急行列車が入つた。

小夜子の姿が見えない、都から歸る女らしい派手な服裝の人を一人々々見ても小夜子の姿がないので、最一度、列車を

一通り覗いて見たけれど中にもプラットホームにも小夜子の姿は見出せなかつた、驛夫にたづねると「東京發急行はこれきりです」との事に呆然として出札口を出た。すると向ふの方に、お兄樣となつかし想に話してる小夜子の姿が目に入つた。

　何處で見そこなつたのか自分にも解らない。馳けよつてゆくと、

「まあ英子さん、來て呉れてたの、私ちつとも知らなかつたありが度う、驚いたでしよう」

　折から電車を降りて慌たゞしく迎ひに出られた妹さんに

「末子ね、大きくなつたのね、三年の間にまあ變つてるは、あゝ嬉しいやつと故郷へ歸れたわ」

　彼女の眼に涙が溢れて居る、とても氣の勝つた小夜子の眼に涙が光る。英子にとつてもそれは見逃す事の出來ない彼女の涙である。泣いたり笑つたりまるで狂人の樣にも見へる。構内車夫が目を見合はして、小夜子の動作を見乍ら笑つて居る。

　英子の頭に突然ひらめいたものは、彼女のお父樣の最後である。愛する妻、小夜子にとつては母である人を手にして自分もと思ふ瞬間正氣にかへつて自首された御父さんは、それから二ケ月餘を刑務所にすごされたけれど、とても人望家であり、非常に溫順な人であり、その上に老いても居られた爲か發作的精神病の鑑定に、猶豫の恩典を得て出所された。然し相も變らず家庭は亂れて最後に服毒して死んで逝かれたお父さんの臨終である。

　思へば不運な宿命にある彼女小夜子である。若しや氣でもと懸念する英子の心は淋しかつた。「如何したの、もう東京へは行かないの」とたづねると、

「後でみんな話します全然東京から歸つちやつたの」それからみんなで電車に乘つた。

　突然、「英子さん、支那革命の中に飛び込んで行くといゝつて東京驛を發つ時友達が言つてました」英子の心は恐ろしく緊張した。小さな聲で小夜子にたづねた。

「四、一六事件へでもひつかゝつたの」

「それは何の事なの」

「知らないの東京に居て、共××事件よね」

「思想問題なんて私しには解りませんわ」

「だつたら如何して役所をやめたの」

「まあゆつくり話します、やめる日に鐘を叩いてやつたの、痛快でした、あれで本望よ」
「そんな事して後悔しませんか、そんな無茶の事をして」
「後悔などしませんわ、せめてものはらいせにね」
話しする間も電車は動いて市の中央あたり迄來た。右手に見えるデパートを指し乍ら英子が「四層樓のデパートが出來て振つてるでしよう」と言ふと、
「本當にこちらも變つたわね、然しやつぱり故郷は好いね」
時々燥しやぐ彼女に電車の中の人が注意深く視線を集めて居る。まる一日汽車にゆられた小夜子の姿は可成り亂れて居るし、時々騒ぐので、本當に變なと思ふ節もあるのはあるけど、つとめて變に思ひ度くないのは英子の心である。話しをすれば變らないので安心して一緒に坐してると「次ぎは大學前で御座います」と車掌が注意した。
「あゝ大學前ですつて、毎日駒込の家へ歸るのに何時も耳にした聲だわ、あゝ、東京と故郷、其處で電車から降りて仕舞つた。暫く歩いてると小夜子から話しかけた。
「英子さん家へ歸ると嫂さんが居るので大體を一寸話しますけど、とても私し此度は腹立たしくて口惜しさの余り歸つて來ましたの。班長がね毎日々々いやな動作をするので到々反抗したの、そうすると事務の上で苛められて、色々甚い目に合つてね、それ丈けならまだしもと堪へて出勤してましたけど、今度は係長迄が班長と一緒になつて仕舞つて。男は卑怯ね」
「Yさんも百枝さんも歸らし度くない、最少し闘へつて勵ましては下さつたけれど、もう身體がいけないので到々辭職さして頂いたの、本當に早く歸り度くなつて」
「班長つて獨身の方」「否え、子供もある人よ」「いやだわね」と話しする間に家の前に來た。
「嫂さんには聞かせ度くないから又あなたの家でゆつくりお話します」

………………

嫂さんは子供達と夕餉の膳について居られた。
「只今歸りました、御無沙汰ばかり致しまして」小夜子はねんごろに挨拶して居る。
今日歸つて來る事は充分知つてるのに、切めて今夜は彼女と共に賑やかな食卓を圍んでやつても好いだろうに。まだ一緒に學校に通つた頃、「私しの親達はみんな嫂さんに命をとら

れた樣なものよ」と話して居たことを今更の樣に思出されるのであつた。

「何んと言ふ親しみのない嫂さんだろう。三年めに歸つて來る義妹の爲に最少しは優しい心で迎へてやつてくれゝばよいのにね、第三者としての英子の直感は戰ひに負けて歸つて來た彼女にはもつと敏感にきざす感情のあることをみてとらずにはゐられなかつた。

「小夜さん、母樣に歸鄕報告しませんか」と言ふと「ほんとに忘れて居ましたね」と立ち上つて燈明をあげて合掌した。

その時の姿、佛樣の前に坐してる姿が、その僅十四日の後には死の恐怖におそはれて狂ふた小夜子の姿であろうとは夢にも思はなかつた。

「今夜は疲れてるから早くお寢みなさい。」と別れて歸る途すがら、如何も姿が變つてることに氣がかりでならなかつた。

「やがて支那へでも行く氣かしら」

三、一五事件でやられた兄を持つ英子は、仲の良い友達との交際も控へて居たと言ふより控えさせられてゐた。何んとかして上京して兄に會ひ度い、然し年老いて一人の息子に裏切られた母の事を思うとそれもならず。絕へず階級鬪爭の意氣に燃ゆる血をじつと堪へて乘出す日の準備を續けて居る私である。

「お母さん、悲しまなくても好いじやあないの、他人の物を盜んだのではなし、よく考へて御らん、世間の人達は無產運動と言へば何處か一部に無產者と言ふ特殊の危險な者の集團かでもあるかの樣に思つて近寄る可からず、と警戒してる樣ですが、他人を無產者だと輕べつしてるその人が大抵の場合無產者なんです。如何したつて有產者と認め得る階級の人は澤山は居ないのだから、同胞すべて七千萬とか歌ふて居るその大部分は無產者なんだから。

自分達の爲に働いて吳れてる人達をまるで危險人物の樣に思つてる人達の頭に階級意識が判然とした頃には、兄さんだつてみんなに解つてもらへます。無暗に悲しまなくつても好いです。」英子が何時も母に言ふ定り文句である。母も大分わかつて吳れたが近頃は余り言はなくなつた。時折り大學生の姿で撮つた兄の寫眞を見乍ら「後一年で學校も濟んで仕舞つたのに」と言つて居る、たまに中學でおなじ級だつた人に會ふと、その日は決まつて考へ込んで居る。

德川年代に生を享けた母に階級意識は解らないのが本當で

あろう。然し英子の心は官憲の壓迫に會つて斷然退學になつた兄の爲に反逆的な紅い血は躍つて居る。眞理の探求者として生きるのだ。雄々しく鬪爭の眞只中へ飛び込むために……………………

あの夜別れて十日待つても小夜子はやつて來なかつた。

とある日の午後。

「御免なさい」「あゝ小夜子さんね」と出て見ると妹さんである。

「毎日待つてるのにお出でがないので。如何かして？」

「えゝ、昨日から氣が變なのです、死ぬんだと言つてね。嫂さんがあなたに來て頂いたら少しは氣も輕くなるだらうからお願して來いといふので、急いで來ましたの。一寸來て下さいませんでしようか」

「やつぱりそうですか。そして？」

「如何もおかしいのです、本當に情ないわ」

報らせに來た事を內密にしてほしいとの注意で、

「今日は、小夜子さん、毎日待つてるのに來ないのね」

といきなり昇り込んで行つて見ると、まことに十四日前に歸郷を告げたその儘の姿で合掌してる。英子は思はず目がしらのあつくなるのを覺えた。

「英子さん有難ふ。私しの臨終があなたの胸に通じたのよ。この地上で一番仲が良かつたのだからね。ありが度う、濟みません。私は後一時間しか生きてないのよ。」

「何を云つてるの、少し外の方へ行こう」

「のんきな事を言つては駄目よ、本當に死ぬのよ、たゞ濟みません、それ丈け」

三年前家の人達の反感の中を志を立てゝ都に旅立つた彼女である。上京後は取急ぎ亂筆にての連發で詳しい消息はわからなかつたけれども、一年餘で任官してる處から見れば他人の話しの通り成績も上々であつたらしい。文檢をとるために夜分學校へ通つて懸命に勉强をしてゐるとの百枝さんの手紙の通り、昨年末上京した時にも、學校へ急いで居た。それが突然一通の電報と共に歸郷して、然も十餘日目には狂人になつてる！

あゝ東京は私しの親友を狂人にして歸した。どこにその原因があつたろう。兄の許へと志ざしてる英子は何んとかして友のためにもつと戰ひを續けてやり度いと焦らつた。私は念のために聞いてみた。

「東京に三年も居て愛人はなかつたの」

「ありました、よく聞いて頂戴、私しが上京したのは九月でしたね、それから十、十一、十二」と指を折り乍ら話し出した。然しその話しは十一、十二と指を折る事によつて途切れて仕舞つて、「つぎは息苦しくなつて話せない」

「その次は」とたづねると「一寸待つて。私しもうおしまいよ」

「えゝ解つてます、死ぬのなら尚更早く言つて下さい。その次ぎは」

「Aと言ふ班長でした。それは本當によくして頂いたし私しもよくして上げました。その頃は役所の方も面白かつた」

　昨冬英子がはる〴〵何百哩を訪ねた時、一度だつて役所を休暇をとつて呉れなかつた小夜子であつた。今始めてうなづく事が出來るやうな氣がした。

「それから」

「一寸外へ出ましようか」

　今迄は外へ行く事は固辭した彼女が突然斯う言つたので、妹さんに後からいらつしやいとて外へ出た。灰色のどんよりとした冬の日の午後である。土手を高等工業學校の方へ歩を進めた。

「あなたは私しの事の出てる新聞を見た」

「何新聞に出てるのかしらんけれど、家では朝日を讀むし、私しは別に讀賣を讀んで居ますけどそんな記事は見なかつたわ」

「嘘でしよう〇新聞に出てるの。十日間程買つて見て下さい」

「何と出てるの」

「近頃東京から歸つて一寸變つた姿をした女で支那から先日歸つた。そして、あゝそう〳〵、あなたがEさんだから江木鐵相で、まあ笑つてるの讀んだのでしよう。」そして內相は誰だつたつけね」

「鈴木喜三郎よ」

「はゝ、あんたは江木で百枝さんが鈴木、そうだ變名で出てる」

　話しはまとまらなくなつた。

「そんな事より東京の愛人は如何して」

「七月に班長が變つたの。今度變つて來られたその人がうるさくつきまわつてね。到々恥をかゝせてやつたの、怒鳴つてやつたのよ。そうしたら毎日の樣に「君これをやつて」と言

つてとても難しいものばかり出して苛めるの。隨分今度は苛められた。

「あゝ思出しても口惜しい」

「あなたのエスは如何して」

「駄目よ、男は卑怯ね。首が欲しいからあつちへ從つて仕舞つてね。女は弱い立場にある。本當に班長の奴、叩き殺しちまひ度い位よ。身體がよくなつたら上京して挑戰してやるつもりですけど、もう非常線が張つてあるので刑務所へ行くの。何しろ菓子をとつたつて言ふのですからね」

「刑務所は罪のないものは行かないわ、菓子を取つて居ないのだつたら法廷で爭へば大丈夫」

「少さい聲で言つて頂戴近所の人達はみんな知つてるから、あれこちらをみんなで見てるでしよう」

「あなたは如何かしてるわ。正氣?」

「人を馬鹿にしてるわ。正氣でないなら何ね、でも、死ぬ前に會つて嬉しかつたわ。然しあなたも一度は呼ばれるよ證人にね」

「大丈夫辯護士になつて上げるから心を靜かにして居ないと駄目よ。入所すれば差入れでもして上げますから死ぬ事は止しなさいね。いらない生命があつたら貧しいものゝ爲に弱いものゝ爲に、階級戰線に立つて頂戴」

言つては見たものゝ本人は正氣だと言ふ。氣が狂ふまでの侮辱を受けたのか、まさか人の物を盜む樣な彼女ではない筈である。狂つてる人との話しはまとまらないが今迄の話しを思ひ合せて見れば見當はつくのである。

「東京へ行つたらA班長に會つて散々言つて上げます」

「いゝえ、言はないで下さい。あの人は私しにとつては愛しかつた人です。たゞ卑怯なのです。本當は死に度くないけど如何せ死なねば刑務所行きだから」

「英子さん、口惜しいのよ。月給を二ケ月分貰つたとか、お菓子を盜つたとか、でも私しは青天白日です。あなたはしつかりやつて下さいね。それから東京へ行つたらYさんと奥樣に永い間色々御世話になりましたと傳へてね」

「そんな小さな心にならないで心を大きく持つて頂戴、春になれば身體も快くなるから」

「醫師の診斷は恐怖症におそはれてるのです。あちらで何か事件があつたか兎に角怯へて居ますね」

との答へであつた。

Aつて言ふその男が今少し男性的な男子であるか、彼女が今一歩Aの懐ろに飛び込むかすればこんなつまらない病氣なんかにかゝらなかつたゞろうに。今半狂亂の彼女を前にして運命の神の惡戯を思つても見た。怒鳴られた男班長が、容れられぬ心を事務の上で苦しめた卑怯をあく迄罵つてやらねばならぬ。彼女にしたその儘を、今頃は恐らく他の女に働きかけてる事と思ふと腹立たしくて堪らない。弱い女を苦しめる手段はいくらもあるだろう。然し、私情を公務で妨害する男も役所では少なくないだらうに。

小夜子の病氣は可成り興進して行つた。その後は幾度訪ねても、頭から布團を被つて寢て居るばかりで、一日中少しも口を利かなかつた。

九月に入ると、追はれて湘南にあると言ふ手紙が來たきり消息の知れない兄の事も氣になつて英子の心は苛立つた。お正月には何んとかして上京し度い、狂ふた友の潔白も立てゝやるのがせめてもの親友の情けだ。東京へ行き度い、と無理に希つて三日に旅立つた。

本郷にある筈の兄の下宿をたづねると、今は小樽へ飛んでるとの事に流石に淋しかつた。然し第一線に立つものが平穩なその日〳〵を送つて居られるものとは思つて居ない。英子は自分で獨り慰さめた。書架の辨證法的唯物論が招く様に迎へて居るばかりである。机の抽斗には印判の捺した葉書が一枚、梧桐の葉蔭夏は來て垢に汚れし膚も汗ばむ三木の茶飲んで忘れる、斯んな文字が並べられてある。多分戰ひのとりことなつたお友達のたよりであらう。

翌朝Yさんに會つて、小夜子の言つた通り御金は盗りません、菓子もとりませんから係長並に班長の奴によく言つて下さい、と傳へると、

「Oさんはそう言へば男は卑怯だと一度言つた事がありました。それにしても可愛想な事をしましたね。そんな盗んだなんて事は誰も言つては居ません。心配しては駄目だと申して下さい、早くよくなつて再び上京して初志を貫徹する様に僕からも言つたと歸つたら傳へて下さい」との事に、では何か書いて上げて下さい。眼は大丈夫見えますから、と言ふと、名刺を出してその裏へその意味の文字を認められた。

喜こび勇んで宿へ着くと、おばさんから一通の電報を渡された。

「サヨコイマオワルヨロシク」
あゝ悲しい。如何に呪はれた宿命なのだらう。切角これ迄にして歸つて喜こばさうと焦つたのに、駄目、々々、駄目になつた。

………………

英子の眼光は鋭く輝いて、
「そうだ、婦人解放運動の闘ひの中へ、まつしぐらに進むのだ。背水の陣は小夜子の魂が引いて居る。
前進だ、前進だ、婦人運動の只中へ！
卑怯な男の面皮を剝いでやる。さうしなければ、澤山の姉妹達が浮ばれぬ。
私が兄の闘志を繼ぐ事は、延いては小夜子への切めての手向けともなる！」

——(一九三〇、二、七)——

後家横町

榎本八十子

父親が拘引されて行つた晩のことだ。年子のおていとおまつの姉妹は、その時程、母親が、激しい憎惡の眼をかつと向いて、憤恨に燃へた軀を震はしてゐることを見たことがなかつた。
「今夜といふ時の來るのは、一年も前から解つてゐたことだ。地道に百姓してりや、どうかこうか食つてはいけるんだのに碌な器量もない癖に……。」
「默つてろ、くたばり損ひ奴、俺が今度娑婆へ出て來りやな手めえよりもつと若い、綺麗な奴と、いくらでも面白可笑しく暮して見せてやらあ、」父親はたけだけしく罵つた。
「勝手にしやがれ、」母親はぎりぎりと齒を噛んで、蒲團を破れる許りに摑んで、荒い息を吐いたのだつた。眼ばかり鋭ど

くきらきらさせた刑事と一緒に父親が出ていつて了ふと、母親は聲を擧げて泣き出した。肋膜、腹膜、黄疸、などの症狀が、もう何としても、快復の見込みのないまでに侵蝕してゐる體を烈しく揉み乍ら、若い母親は深い涙を堪へ兼ねてゐた。

三月前に生れた赤坊を背にくゝりつけたおていと、四つの女の子を抱いて母親の苦悶を見せまいとしてゐるおまつと、後二人の男の子とは、隅の簞笥の前に蹲くまつて息を殺してゐたのだが、がらがらと大戸を閉めて父親が外へ消へて了ふと、おていとおまつは霞んだ眼付きで母親の傍に寄つて來た。

「おていもまつも決心してゐな。母ちやんはもう到底駄目だから、後は二人で小つちやい子の面倒見てやつて呉れな、どんな事になつても、田端の伯母さんの云ふことなんかきいちやいけない。母ちやんは、今まで、どの位あの伯母さんとも爭つて來たんだか知れないんだよ、それでなかつたら、おていも、まつも、とつくに藝者に賣られてるところなんだもの。母ちやんが死ねば、きつと、あの增川や伯母さんが、やつて來るに決つてるんだからよ、二人共確つかりしてゐて呉んなよ、頼むから」

十七になつた許りの少し耳の遠いおていは默つて母親を見下ろしてゐたが、おまつは昂奮して固く母親の手を摑んでゐた。火の氣のなくなつた一間きり無い部屋の內は森として、時々、赤坊の乳を欲しがる泣き聲で、生き心地を感じる位だつた。だんだん死に近づいていく母親の床を圍んで、六人の子供達の大きいものは、それぞれに、引かれていつた父親の幻を追ひ乍らまじまじとしてゐたが、やがて、幽に鼾を立てゝ眠り初めた。

おまつは、時々、はつとして眼をあげると脅へ乍ら母親を見たが、母親がぢつと眠つてゐるらしいのに安心して又、眠りに落ちていくのだつたが、その度に、父親のことが新らしく思ひ返された。

無味で、不統制な小作百姓に見限りをつけた父親が、地所家屋、或は人事の、あらゆる周旋業に不當の暴利を得られることに興味を覺へ出して、それが、半年と經ないうちに本業にまで化していつた事は、村の人々を只々感嘆させた。

林が切り開かれ、田圃が埋められ、畑が均らされて、赤、靑の文化住宅の屋根が日毎に數を增していく土地の狀勢から

親ていつたなら、父親が、先祖代々の百姓生活を潔く追つ放り出して時流に突進していつたことは少しも非難すべきことではなかつた。にも關はらず、菜つ葉の一束二束の相場にも體中を針のやうにしてあくせくした取引きに眞青になつてゐなければならない生活より、茶屋酒に親しみ乍ら、嘘に嘘の上塗りをした揚句の果のあぶく錢に恍惚とする氣持は忘れ難いものだつたらう。

やがてそれらの手段に、惡の色彩が加へられ、毒々しい惡戯となり、低劣な遊びとなつて、再び元の、否！ もつと救はれ難い自縛の泥沼に轉落していくことも當然のことだつたらう。彼の小才に羨望を限りなく浴びせてゐた村の人達も彼の思ひ上つた生活から急速度に凋落していく彼を極端に輕蔑し出した。

僅の宅地と、竹山とはいつの間にか二重三重の抵當に放り込まれ、最後に、印鑑僞造、詐欺横領などゝいふ、明瞭確實な犯罪をたくし込んで、彼は遂々拘引されていつたのだ。

他人の噂では、二人も三人もあるといふ妾の爲に、母親のとつて置きの衣類が、いつの間にか、一枚二枚と減つていくことで、ふた親が爭つてゐたことも、おまつ達の眼には珍らしいことではなかつた。

日頃から、出產の時より外に寢たことのない母親が、六人目の赤坊を產んでからずつと床について、幾日となく家にゐない父親が歸つて來さへすれば、子供達を憚り乍らも、母親は彼を反省させやうと焦つてゐた。落目になればなる程、惡の度合を濃くしていく彼を、幼い子供達まで、遠く離れた氣持で眺めるやうになつた。

おていはお針に通ふのを止め、おまつは、町の女學校から退學屆を請求され、男の子は小學校の月謝が三ヶ月分も滯つてゐる有樣だ。

若し此儘母親が死んでしまつたら、自分達六人の姉弟はどうなるのだらうか――そう思ふと、おまつはもう寢てなどゐられなかつた。

赤坊を抱いたおていも、細眼を開けて、淺く眠つてゐたが一寸した氣配にも鋭どく神經を働かしてゐるやうだつた。

柱時計が三時を打つ頃から、母親は制し切れない呻めき聲を立て始めた。

「母ちやん苦るしいの？」

「あゝ。苦るしいな、誰か體を確りと押へてゐて吳れないか

な」

「此處んとこ、こうやつていいの」

「うう、もつと強く、ああ、」

沃度チンキを塗つたやうに黄色く萎んだ皮膚と、水氣を孕んだ腹部の膨脹に頼り無く眼を背けたおまつは、瞭りと母親の最後を知つた。おていを起し、幼い弟や妹を揺り動して目を覺まさせると、平常着で寢轉んでゐた者達はころころと起き上つて母親の枕元に集つた。

「みんな起きてゐるの、靖も、淸も、咲坊も、みんな二人の姉ちやんの言ふことよくきいて溫和しく暮していつて呉んな、解つた？」

視力の鈍つた眼で、子供達を見上げた母親は、がくりと、首を振つたかと思ふと同時に、呼吸が止まつた。

子供達が、一時にわあつと泣き出した。

田端で、娘に藝者屋を出させてゐる父親の妹と、その內緣の夫の增川とが、翌朝眞先きに馳けつけたのは、父親が拘引されていつたといふことだけで驚かされたのだが、その上に母親が死んだのだとは想像もしてゐなかつた。

「まあ、こんなに惡くなつてゐたのに、何故早く知らせなかつたのだい」と、二人は、姉妹達に怒鳴りつけた。

伯母が、署の刑事に、極親しい知り合いがあるから、父親の歸宅を嘆願して來ると言つて出ていつたが空しく戻つて來た。

ぼつぼつと集つて來た村の人達と、伯母夫婦の計らひで、葬式の順序は運ばれていつたが、彼の留守中といふ事で、最後まではどうしやうもなかつた。金もあるどころではなかつた。誰彼、と尻込みする人を無理に頼んで、二度、三度と、警察へ出かけていつたが何一つ聞き入れられなかつたが、四日目に、いよいよ葬ひも出さずには置かれなくなつた時、一人の刑事に附き添はれて父親が戻つて來た。

彼は言葉もなく、棺の中を覗いてすぐに離れてしまつた。そして、再び出ていつた。

「父つちやん、又、拘留にいつちまうの？」と男の子が叫んだ。人々が、みんな息を呑んで彼の默々として歩いてゆく後姿を見守つたのだ。

「やーれ、やーれ、吉つあんも遂々男後家になつちまつたに」

「ほんとだ、之で幾人だな、與吉んとこと、千松んとこと、甚太と、辨治んとこと、鹿ちやんとこと、吉つあんと、丁度

六人目だぞ、昔つから後家の多いとこだつてことだが全くだいな」會葬者らはてんでに話し合つた。

やがて夕暮近く、霜に荒れた土の上を、淋しく葬列が繰り出された。

こうして、無智と、貧困と、過勞とに壓し潰された者の最後の旅立が、次々と、その後家横町から吐き出されてゆく事だつた。

人は生れて死んでゆく——そんなことは、小娘のおまつだつて知り切つてゐることだ。

けれど、多くの人達は、何と、暗く、じめじめと、死に襲はれてゆくことよ。そして又何と、片輪な、寂寞とした生活に甘んじてゐることよ、おまつは、泌々と、改めて周圍を見廻した。何も彼もが、みんな傷だらけの世の中だつた。

——(一九三〇、二、一七)——

彼女のロール

川瀬美子

四月十七日の夕方、街子は、三月程家へ姿を見せない夫が昨日早朝他の同志と一緒に、××の隠家であげられたと云ふ知らせを受けた。

「××からだけで二十人近くです、この分ぢや多分全滅でせう。」

「今度は當分かへれないから、あなたも、メーちやんも、からだを大事にするやうにつて」

使ひの男はこゝまで云ふと、フイと左の手をあげて腕の時計に目をやつた。

「いづれ今後の方針については誰かあとから來る事と思います。僕はまだ後に、まはらなくてはならない所がありますから、今日はこれで失禮。」

身をひるがへして、格子戸を出て行く男を見送ると、彼女は、何とも云へない複雑な氣持をハーッと大きなため息にはき出した。

いつかはかう云ふときが來る事は、夫の眞木が結婚當時から、云いきかせもしてゐたし、彼のやつてゐる運動の非合法性を知つてゐる街子にも、よくわかつてゐたので別に涙も出て來なかつた。が、たゞ何となく、ひどく現實的なショックだつた。

「メーをそだてなくちやならない」

先づ第一に頭にひらめいたのは、これだつた。しかし彼女は、主義者の妻である自分が、無意識の中にひどく古風な感傷にひたつてゐるのを見出して思はず苦笑した。

眞木は、最近まである私立學校の講師をしてゐたので、その方の退職手當と、飜譯や雜誌への寄稿やらの報收がどうにか、彼女と、三つになるメーとの生活をさゝへてゐたけれど今、前者は幾ばくの殘りもなく、後者は全くたゝれて失つた。何とかしなくてはならない。

「心配する事はあるもんか、メーはマヽが働いていゝ子にしてあげる」

街子は、彼身自身に、云ひきかせるやうに云ふと、無心に積木をいじつてゐるメーをいたい程だきしめた。

一週間程して、眞木の古い友達で、今ではプロレタリア文士として、相當名をなしてゐる太田と云ふ男が二人の友達とたづねて來た。

「私どうしても働かなくちやならないから、先につとめてたとこへ一番に行つてみたんだけれど、今タイピストは滿員だし、それに子供があつちやだめだつて云ふの。

もう一つ、新聞でみて行つたんだけれど、やつぱり子供のある者はだめだつて」

彼等の顏をみるなり、しやべり出した街子の、以外に元氣なのに、彼等も安心したやうに顏を見合せて云つた。

「メーちやんに呪はれましたね」

「さうなの、でも不思議なもんよ、そんなに呪はれたつて、一寸も私はメーを呪はしくなんか思はないもの、何よりやつぱりこの子をよくそだてたいのぞみが一等强いのよ」

「はゝあ、街子さんの母性心理か？」

「まつたくよ、親つて不思議なもんね。」

斷髮をかしげて、いたづらさうに横目で彼等をみる街子の

様子は、こんな言葉が不つり合な程可愛いかつた。
「しかし、街子さん案外元氣で僕達も安心した。あんたは他の子供のない人と違つて、手の入るさかりのメーちやんがあるし、あんた自身腺病質で、はげしい仕事なんか出來ないんだから、本屋でもしたらどうかつて僕等相談してきたんだがどう？　よければ、僕達で小さい店を借りる事にするから。」
「さう。」街子は、即座に、替意をこめてうなづくと、すまないわねと云ふやうに、一寸彼等の目をあほいだ。
「それで買入の事やなんかこの沼つて男がやつてくれるんだがね、この男は先に本屋をしてた事もあるんだから」
　かうして街子は、×と云ふ郊外の町に、本屋をひらく事になつた。
　×の町は古い宗教大學と官立と私立の二つの專門學校と、三つの女學校を附近にもつ、本屋をするには丁度いゝ場所だつた。五月二日、街子の希望で、メーの誕生日に開店した。
　土間の大きな臺に雜誌の類をならべて、そのまはりの、買いあつめた棚に、沼があつめてくれた新古の本をつめた。定價表をつけると、彼女自身も商賣人らしい氣持になつて、沼を笑はせた。
「出來るだけ僕等の仲間で奔走して、いゝ本をあつめて、なるつたけ、この邊の若い學生をアジるやうにするんですね」
　沼も彼女の元氣なのに調子づいて聲をはづませた。
「この頃の若い學生の讀書慾つて、殆どこつちに限られてるらしいのね。」開店して十日目の夜、街子は賣上を一々しるしたノートをみながら沼に云つた。
「一ばん出てるのが唯物史觀の四冊、ＡＢＣが三冊に、國家と革命と、史的一元論が二冊づつ、それから、あとレーニズムが一冊に、小さいものが大分出てるわ。
　雜誌を除いちや、殆どこつちの本ばつかりよ。」
「それはめでたい。」
　沼はかう答へると、新らしく注文する本を、メモにひかへて、ドブ板をゴト〳〵云はせてかへつて行つた。
　メーは雄々しい可憐な、めん鳥のやうな街子のつばさの下で、すこやかに成長した。
　そして、彼女の、この四疊半と、三疊の家へは、彼女の夫と同じ境遇にある同志達の細君がよく出入りした。
　ある日、街子が、なまあつたかい南風が砂ぼこりをはらんで吹きこむ店先で、新らしい本に定價をつけてゐると、一人

の黒いパスの車掌の服をつけた女がとびこんで來た。

「あなた、眞木さんの細君でせう。」

みしらぬ女から、しかも、ひどく敵意をおびた調子で、よびかけられて、街子は思はずハッとした。

「私は、あなたのだんなさんと一緒につかまつたSの妻です。私は、夫がとらへられるとすぐ、バスの女車掌になつて、夫の意志をついで、血みどろな活動をつゞけてゐるのです他の同志の細君も、それ〲私と同じやうな方面に行つてゐます。

それに、あなたと云ふ人は、こんなところで本屋なんか開いて、すつかりノホヽンをきめこんでゐるなんて、私ほんとになさけなく思ひます。こんなプチブルくさい生活をしてゐて、あなた自身だつて、だんなさんに對して、よくすまないと思いませんね。

私あなたの事を新聞で知つて、そんな人が私達の仲間にゐるかと思ふと、もうたつてもゐてもいられなくて、一寸のひまをぬすんで忠告にやつてきたんです。」

女は腰もかけずにたてつゞけてしやべると、ぎろりと街子をにらんだ。生憎沼は外へ出てゐない。さま〲云いたい事が胸につかへて、街子はふつと涙ぐんだがこんな弱氣な事でどうするのだ。と、自分を叱りながら彼女は口をひらいた。

「御忠告ありがたう。しかし、私には私の考へがあつてしてゐる事ですから、そう、あなたからのゝしられる事もないと思ひますけれど」

「まあ、それで自分のしてゐる事を、いゝと思つてらつしやるの。なら私もう何も云ひたくはありません。」

女は、荒々しく街子の前を去つて行つた。

眞木が入獄してから二ヶ月程たつて、様々の面倒くさい手續をへた後でやつと面會がゆるされた。うす暗い面會室の空氣の中で彼女は彼女自身のかぼそい首へ目を下してゐる眞木の手前、どうして華やかにふるまつたらいいかと苦心した。

「メーは、とても天氣で大きくなりましたわ。今度——」

「まあつれてこない方がいゝだらう」

「沼さんなんかに助けて貰つて本屋をしてんだけれど、こないだバスの車掌になつてるつて、Sつて人のおくさんに、どなりこまれちやつたの。本屋なんかしてプチブルだつて——

でも私には、メーを育てなくつちやならないつて義務があるし、それに本屋つて商賣は一つの啓蒙運動にもなるのよ。この頃の學生つて——」

「余り、こみ入つた話しをしちやあこまる。」

と、つきそひの、しなびた看守が注意したので、街子はニッと笑つて眞木を見上げた。

「僕は、君のしてる事、メーのマヽである君がしてゐる事を決してプチブルのする事だとは思はない。ともかく、僕は元氣なんだから、安心して商賣にはげみ給へ。」

眞木の最後の言葉のふくむ意味を思つて彼女も暗らく笑つた。彼女の商賣は、豫期以上に好調子で進展して行つた。

「資本論の全譯がほしんだけれど、一寸今金の都合がつかないんで。」と、親しげに話しかける學生に、

「お金なんて出來たときでいゝから、もつてらつしやい」

など云ふ程彼女も、商賣になれてきた。

「もう街子さんも、本調子だから、僕も用がなくなつたわけだ」と沼は笑つた。

「ありがたう。でも、かうして、ともかくメーと二人の生活だけは、保證されてゐるけれど、その事――つまり本屋なんかして、親子でのんきにくらしてゐる事を、Ｓのおくさんみたいに、にが〳〵しく思つてゐる人がたくさんあるんぢやないかしら。あゝ云ふ子供のない人から見れば、そりやあかう云ふ生活が、ひどく小ブルジョア的で、はがゆく見えるかも知れないけれど、私が今工場なり、どこへなり入つたとしたら、それはメーの母親である私が、メーをころしちやふ事で最善の方法だとは云へないと思ふんだけれど。」

眞木だつて、私の今してゐる事を、決していけない事とは思はないつて云つてましたもの。要するに私達の間では子供を、つくらない事が第一だつたのね。でも、生れたからにはやつぱりそれを育てるつて事が第一義的な事になるんだと思ふわ。今の日本の樣子ぢやあ、子供は親がそだてなくちや、ほかに育てゝくれるところは何にも無いんですもの。そこんとこが子供のない人にはわからないらしいけれど」

「ともかく、今のところ、あなたは、メーちやんを、そだてる事があなたの一番大事なロールなんだからな」

沼も、彼女に調子を合せた。

「さうね。」

やつぱり新しい時代がきて、子供は親が心配しなくても、育つやうになるまで、母となつた女のロールは、やつぱり子供をよくそだてる事なんだわね。」

街子はほがらかだつた。

公爵夫人のさなだ虫

ヤロスラウ・ハシェーク原作

優れたるメヒリン公爵夫人が、眞田虫にお罹り遊ばされた。こんな天使のやうなお方の體內にでも、あの長々とした何の變哲もない眞田虫が棲ふものかどうか、はつきり突きとめることは今まで出來なかつたのだ。それは、この虫が公爵夫人の體外に出て初めて判ることだ。

もつと不可ないのは、侍醫が公爵夫人の何處がお惡いかを——何ならフランス語で申し上げてもよいのだが——はつきり申し上げてしまふ勇氣を、いつも出ししぶつたことである。自分の靴の紐さへもおひとりで解いたことがなく何もしたことがない故に、お上品である軟かな貴族のお手を持たれた此の天使にどうして本當のことが告げられやうか？ 公爵夫人は純粹なアングロサクソン系統から出られた方で、恐ろしくお脊がお高く、色は青白くおはしたが、全く天使のやうなお方であつた。歿くなられた公爵様に仕へて正直で通した四人の傭人が、恩給の不充分なため飢死するところだつたのを、公爵夫人はこの四人のために一軒の病院を建てゝおやりになつた位である。

それからまたこの優れたる公爵夫人は、この四人の老人だけの住むホームをお造りになられた。老人たちは、濃青色の襟のついた白い布で作つた病院服を着てゐた。なんでもその赤いズボンのお尻のところには公爵夫人の御紋章が縫ひつけられてゐるとの話であつた。が、それは間違ひである。公爵夫人の御紋章は淡紅色のしるしのついた平つたい帽子の上にあつたゞけだ。彼等が村に姿を現はす毎に、村の子供達は襞襟を貰つた。

天使そつくりの公爵夫人もよく村にお出ましになり、貧し

い子供達に薔薇の花をお頒ちになつた。美しいお心の持主である公爵夫人は幾ら慈善をなすつてもこれで充分だと思はれることは決してなかつた、そして赤坊を生んだ貧しい女に見事な蘭の花環をお贈りになつたことがあるが、これは、今後適當な機會にまた蘭を村へお下げになるだらうとの前兆であつた。

この附近の人々は公爵夫人のお情を知らないものがなかつた。齒拔けのペシエル婆さんが死にさうになつてゐる床へ、フランス種の胡桃を五キログラムもお屆けになられたことがある。ペシエル婆さんは、その胡桃を持つてきた從僕を眺めると深い溜息をついてその儘死んでしまつた。

また或るとき、公爵夫人は組合の豚を番してゐる牧夫のトニーに何か變つた方法で、贈物をしやうと御決心あそばされた。そこで二人の從僕をお遣はしになつたが、彼等がトニーを見つけ出すまでに、足に豆をこしらへた位であつた。辛つとのことで彼を引つ摑まへ、物凄いほど吠えたてる彼をお城の中に引づつてきて、お湯に入れて垢を落さし、さて公爵夫人は彼に繪具箱をお贈りになつた。トニーは三色食べてしまつたが、殘りの色は投げすてた、うまくなかつたからである。

羊飼小屋に住んでゐるクラーベツク爺さんが大變困つてゐるといふことをお聞きになつた公爵夫人はパイナツプルを一つ御めぐみになつたこともある。

クラーベツツはユダヤ人のところへ行つてそのパイナツプルを燒酎と交換した、がこんなことのために公爵夫人の心が慈善事業から背くといふことは更になかつた。それどころか大暴雨のため川邊の小屋が二軒押し流されたとき、その宿無しの人達にクリームを掛けた苺を二皿お贈りになつた。また鐘樓守が死んだとき、すぐさま公爵夫人は、後に殘された哀れな内儀さんが元氣づくやうにと、菓子一箱、純粹のイタリヤ式『清涼ボンボン』をお下げ遊ばされた。

お城へ參上して手ぶらで歸るものはなかつた。或る人は、すぐりの實を、も一人は赤すぐりの實を、も一人はなつめを栽いた。困窮をやわらげやうといふ事ばかり公爵夫人は考へて居られた、で若し誰かゞ本當に何にも食べるものがないといふ場合には、彼は公爵夫人がきつと助けてくれるものと當にしてゐて間違ひはなかつた。この高貴な公爵夫人は彼に石油瓶を五本お贈りにならないにしても、きつとアルコール湯沸器をお遣はしになるにちがひなかつた。

小學校の圖書館のために彼女は„Sport a Bild"（譯者註—伯林から發行されてゐるスポーツ中心の上流社交向の週刊雜誌）を注文した。讀書室のあるチエッコ人組合の場合には、サラボから出てゐる雜誌「ボスニヤ・ボスト」を購讀する契約をし、また村の小學校の優等生は本を彼女から贈られた。要するに、彼女は天使だつた。惜しいことには、眞田虫のわいた天使だ。

「公爵夫人様に何と申し上げたものか？」とメリハル博士は彼女から病氣は心配するほどのものかと問かれたとき、思ひ迷ふでのあつた。

「決して〳〵、さやうな事は御座いませんで御座います、大奧樣」

と侍醫は答へた。

「ほんの、ちよつとしたお障りに過ぎないので御座います。大奧様には時々、睡蓮の浮んで居りまするお池を御觀遊ばすことが御座いますで御座いませう？　例へて申しあげますればお城のお庭のお池で御座いますが？　あすこには澤山の扁蟲類が居るので御座います、それは特別な變種で、扁平な蛔蟲の原型（プラテミンテス）で御座います」

公爵夫人は啞然として彼を見つめた。

「左様で御座います、私共が「柔軟細胞組織的」と名附けることの出來まする扁平な蛔蟲で御座います。この扁平な蛔蟲は三群、とりも直さずセストーデス、トレマトーデス、トゥルベラーリアに分れるので御座います。これは何とも喩へやうない可愛い生物で御座いまして、眞田虫、狗腸條虫、扁虫類などゝなりましていろ〳〵な住居を求めて生きて居るので御座います。もし大奧様におかせられましてお城のお庭にお出まし遊ばさるなれば、先程申し上げましたやうに、大奧様の御寄生虫の原始的形態を御覽遊ばすで御座いませう」

優れたる公爵夫人には何が何だか薩張り解らなかつた、彼女の純心では、眞田虫とは何か知ることが出來なかつたからである。

「侍醫さん、妾には貴方の仰言ることが解らないので御座いますよ！」

「大奧様」と博士は、公爵夫人の邪氣のないのに元氣づいて言つた「眞田虫と申すものは、貴族がたの間に限つて現れますといふことを御考へ下さいまし。私共は伯爵様、公爵様、いゝえ大侯様でさへ、大奧様と御同様に、眞田虫を御持ちに

なり、根本的な御手當によりましてそれを見事に下しましたといふことを存じて居るので御座います」

「何と言ふことで御座いませう、その下すとか申しますのは？」

侍醫は咳拂ひした――「純粹なものには何でも純粹に見えるんだ」そこで彼は聲を擧げて「おいしいストラスブルク風のパイが下つていきますると丁度同じやうに、眞田虫も下りましたので御座います、胃の中に入つて居りまする物と一諸に下りましたので御座います。大侯樣の時は、鷸と川蝦とのパイで下したので御座いました。大僧正樣方も眞田虫をお持ち遊ばしまして、御祈禱書をお手にお持ちになつたまゝお下し遊ばしたといふことも、私共は存じて居りますで御座います。あるヨーロッパの王樣は年年御體內に眞田虫をお持ち遊ばして、そのため國民から非常なる敬愛を受けられるので御座います。大奥樣、その國では、眞田蟲を辱しめることは國王侮辱と同樣に重く罰せられる位で御座います。眞田蟲が大奥樣の御身體を確に立退きましたといふことを確證いたしまする爲に、お腰元方にもつと注意を與へることに致しませう」

侍醫が引さがつたとき、優れたる公爵夫人は、聽罪師をお呼び寄せになつた。「師よ」彼女は心の底からの畏敬の念を以て言はれた「妾は眞田蟲を持つてゐるので御座いますよ！」

きれいに頭の禿げた聽罪師は兩手を合せた「飛んでもないことで御座います、どうして左樣なことが有りませう。貴女樣は純潔そのものゝのやうなお方で御座います、薔薇はお持ち遊ばしても眞田虫などを何うして。それでも眞田虫をお持ち遊ばすと致しますれば、それは神樣が大奥樣をお試しにならうとの思召でお遣しになつたもので御座います。神樣の深き御惠を御信じなさいませ、限りなき御慈悲を御信じなさいませ、その眞田虫は必ずや消え失せるで御座いませう。神樣は愛の十字架をお持ちになつて貴女樣を訪れ遊ばされたので神樣はこのお試しに當りましても貴方樣をお救ひ申し上げるで御座いませう」

「師よ、大僧正樣も眞田虫をお持ちになつたとのことで御座いますが」

「大監省僧樣方や法王樣でさへお持ちになりました。聖ヨハネはア荒野の中で眞田虫と戰ひ、法王ヨハンナ二世は眞田虫をアビニヨンまで御持ちになりました。眞田虫と申すものは忍苦の徴で御座いまして眞田虫は罪人を寄せつけないとか書かれて居ります」

眞田虫は公爵夫人の體內で、げにも奇しき奇蹟を行つた。

侍醫は毎日彼女に、羊齒の煎汁（ベリノデイウム・フイリク

ス）、柘榴の樹皮煎汁、もくせいさうの强い茶の煎汁などをお腹がだぶつくほど飲ませた。また公爵夫人は毎日三回乃至五回づゝ、メロンの種とナフタリンを呑みこみ、そのあとでリチネを飲まされた。

これ等はいづれも、効驗あらたかなそして世間に知られた藥ばかりである。優れたる公爵夫人は、そこで、神樣が自分を非常に愛されて斯樣な試しをなさるのだとの確信を益々强うされた。

で遂に、十四日の夜、一匹の淡紅色の眞田虫がアルコールを入れた華麗な瓶の中に漬けられることゝなつた。

侍醫の言つた通り、それは長々とした眞田虫であつた。公爵夫人はその長さが御得意であつた。その長さから推せば神樣は余程彼女をお愛しになつてゐるのだから、

さて公爵夫人は、こゝ暫く眞田虫との鬪爭中怠られてゐた慈善事業を再びお始めになつた。

そこで或日のこと彼女はまた村へ御出ましになつた。

馬車にお乘り遊ばされて四邊を注意ぶかく御覽なすつた。それから村長の邸の前に車を停めさせて、この村に誰か病氣をして居るものは無いかとお問ひになつた。

百三十二番地に住む隱居百姓のマチアスが病氣に罹つてゐるとのことであつた。

公爵夫人は從僕をお遣しになつて、何處が惡いのかお訊きになつた。從僕は、マチアスが眞田虫に罹つてゐる旨を彼女に報告申し上げた。

この報告は公爵夫人に殘酷な打擊を與へた。あの隱居百姓のマチアスの樣なたゞの人間が、氣高き魂にのみ惠まれる眞田虫を持つてゐるといふ樣なことが有りえやうか？

お城へお歸り遊ばされた公爵夫人は、禮拜堂に跪かれて、叫ばれた——「おゝ神樣、そんな事が有りえませうか、有りえませうか？」

この日から、この優れたる公爵夫人も次第に元氣をお失ひになつた。そして彼女の黃金のやうな心臟が打止んだ。お歿くなりにならぬ前、彼女はアルコールに漬けて保存して置かれた眞田虫を小學校の標本コレクションに寄附され、お城の中の一番古い傭人には高價な香水を一瓶お遣しになつた。また彼女の命日には貧しい子供たち全部にすぐりの實を贈ること、それから同じく彼女の命日には貧しい人々を公爵領の森の中に入れさせて苺や菌を自由に取らせよ、と言ひ殘された。

斯うして優れたる公爵夫人は丁度一月の三日に此の世を去られたのであつた。

神よ、彼女に永遠の平和を與へ給へ、だが、その命日、卽ち一月三日にすぐりの實を贈ることや苺や菌を取らせることは如何相成つたか、次の段ではなくて、殘念ながら私には言へない。

春が來た

明るい春がおとづれて、私の元氣も二倍し、三倍して來ました。身も心も輕ろ〳〵と大いに働かう。改めてこゝにお誓ひをしておく次第であります。

◇

一月の末から二月の末まで、私は殆んど旅をしつゞけでした。ルス中に深山の用事が混線しちやつて、手のつけやうのない程でした。長いことルスにして出歩いたことを後悔しても、然し、もうあとの祭りでした。

結局三月號を休刊して四月號を急いだ方がいゝ、と考へついて、殘念乍らその覺悟をきめたけれど、矢のやうなサイソク狀が三通五通と、月の三四日頃から舞込んで來るのが、みてゐられぬほど私に苦しい一件でした。

◇

然し、これを劃期として必ず雜誌の發行日だけは狂はし度くないものです。かうして、熱心に皆から支持してもらつてゐる仕事に對してだつて、私はそれだけの誠意を實行しないではゐられないのです。どうぞ讀者の皆樣としては、私があんまり金子の心配でおひまわされないで

讀者を殖やして下さい

廣告力をもたないうちの雜誌のやうなのは、內容がどんなによくても、今の資本主義社會では店頭の競爭品にならない。

だから、讀者から讀者へ！

直接勸誘に依つて、雜誌の協力者をふやすより外ないのです。新しい仲間よ。殖えよ。どうぞ

讀者を殖やして下さい

もいゝ樣に、友だちにすゝめて讀者になつてもらつて下さい。新しい時代に生きやうとする女としては「婦人運動」に對する理解位はぜひ備へておかなくてはなりませんもの。

◇

おひ〳〵と事務所の陣容が立て直つて力强くなります。新潟と高知とから將來農村婦人運動に進まうといふ決心固い人が勉學のため近々上京してみえることになつてゐます（その人たちの氣焰は來月號誌上で）

新しい刺戟を得て、私たちも大いに活動と勉學にはげみがついた、といふところであります。

◇

都會地の既成婦人運動などには到底うかがひしれぬ樣な眞劍な力が、今や農村婦人の間にポツ〳〵と動いてゐるのを私は感じます。農村生活そのものが、もう氣力ある婦人をぢつとさせてはおかぬのだ。と考へられます。あちこちに農村の力强い仲間をもつことが出來てゐる私たちは幸ひであります。

土を動かすだけが農村民ではない。世を動かす力も、土にまみれたその農村の手です。

私は當分、旅行を控へて東京にゐる筈です。東京にゐる限り水土曜の午後には在社いたします。みなさんで、出かけて來て下さい。山島の尾のやうに長びいてゐる「職業婦人の家」の目鼻がやつとつきさうになつたので、目下その方にかゝつてゐます。

どうぞ皆さんも、「家」のためにもう一倍助力して下さい。

（奥）

昭和五年三月三十一日納本
昭和五年四月一日發行

◇誌代はすべて前納にして下さい

編輯發行印刷人 奥むめを

誌代
壹部 貳拾錢
半年分 壹圓二十錢（郵税一錢）
壹年分 貳圓二十錢

發行所 東京市牛込區本村町四
職業婦人社
振替東京六四一六〇番

世界プロレタリア傑作選集

思想文學の最尖端！

プロレタリヤ文學の勝利の鐘は今や全世界に鳴り渡つて居る。古き文壇の外殼を突き破つた清烈な新興の意氣と生活戰線に生産された藝術の奔騰は今や新しき全世界の讀書階級を完全に把握した。本選集の如き時代的出版の洪水の如き氾濫を讀者諸兄と共に切望する。

著者	書名	譯者
グラトコフ	醉ひどれの太陽	井田孝平譯
リベヂンスキイ	一週間	小宮山明敏譯
セミヨノフ	飢	黒田辰男譯
ゴリキイ	番人	藤原惟人譯
ベツヘル	銀行家が戰場を馳驅する	辻恒彦譯
マルチネ	夜	佐々木孝丸譯
トラア	どつこい生きてる	黒田禮二譯
ハルツプ	インタナショナル	川口浩譯
ウイツトフオーゲル	誰が一番馬鹿だ	辻恒彦譯
ラツコ	戰の人々	千葉龜雄譯
バルビユス	クラルテ（上）	佐々木孝丸譯
バルビユス	クラルテ（下）	佐々木孝丸譯

第一期刊行 十二册

一册 三十錢

選擇自由

東京麴町 振替東京二九六三九

平凡社

山本宣治全集第五巻 出來發賣

最新刊

現代の兩性問題

戀愛至上主義者共の甘唾を木葉微塵にせよ。
速かに性に對するプチブル的態度を決算せよ。
「結婚・三角關係・離婚」次いで「受難・神風危險思想」に現はれた山宣の思想的轉換・無産者的立場への發展を見よ。
舊き衣を棄てよ。
脫殼だ。

多くの若き男女やブル小說家などは、戀愛といふものを、夢の如く他愛なく、蜜の如く甘く考へ、戀愛至上などと愚にもつかぬことを言つてゐる。本書は著者が生物學者の立場から徹底せる科學的方法によつてその眞の性質と意義とを明かにしたるもの、戀愛學上に於ける最大の革命的文獻である。

定價 壹圓五拾錢・送料拾八錢
四六判三七〇頁特製

發賣所 東京本鄉湯島切通 ロゴス書院 振替東京一〇三九一

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可
昭和五年三月三十日印刷納本
昭和五年四月一日發行（毎月一回・一日發行）

婦人運動 第八巻第三號

定價廿錢